

平成 28 年度  
鳥取県青少年育成意識調査報告書  
【概要版】

平成 29 年 3 月  
鳥取県



# 目 次

1	調査の目的	1
2	調査範囲・方法	1
3	調査の基準日	1
4	主な調査内容	1
5	報告書の見方	1
6	調査についての問合せ先	1
7	調査結果の概要	2
(1)	家族・家庭	2
	ア 同居家族	
	イ 家庭生活の満足度	
	ウ 保護者が子育てで心がけていること	
	エ 青少年に関する問題への保護者の関心	
	オ 家庭での指導の内容	
	カ 基本的生活習慣	
(2)	地域とのかかわり	10
	ア 地域での活動への参加状況	
	イ ボランティアへの関心	
	ウ ボランティアへの参加	
	エ 選挙投票についての意識	
	オ 児童生徒と地域の大人との親しさ	
	カ 保護者から見た地域の子供との親しさ	
(3)	インターネット	16
	ア インターネットの利用時間	
	イ インターネットの利用目的	
	ウ インターネット機器の利用状況	
	エ ペアレンタル・コントロールの状況	
(4)	学校生活・学習習慣	20
	ア 学校生活の満足度	
	イ 学習習慣	
(5)	心の状態	22
	ア 自己肯定感（自分には良いところがあると思う）	
	イ やればできると思った体験の有無	
	ウ やればできると思った体験の内容	
	エ 青年が充実していると感じるとき	
	オ 居心地がよい場所	
	カ 悩みの内容	
	キ 悩みの相談相手	
	ク 子どもについての保護者の悩み	
	ケ 保護者の悩みの対応法	
(6)	進路・職業観	31
	ア 希望する最終学歴	
	イ 職業選択の規準	
	ウ 青年の働くことについての考え方	
(7)	非行傾向による比較	34
	ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分	
	イ 非行傾向群と一般群の比較方法	
	ウ 属性	
	エ 家族・家庭	
	オ 友人関係	

---

カ 生活  
キ 学校生活  
ク 心の状態  
ケ 非行

(8) 一日のインターネット利用時間（長さ）による比較..... 43

ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分  
イ 一日のインターネット利用時間（長さ）各群の比較方法  
ウ 生活  
エ 学校生活  
オ 心の状態  
カ 非行・被害

(9) ボランティアへの参加経験の有無による比較..... 48

ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分  
イ ボランティア参加群とボランティア不参加群の比較方法  
ウ 家族・家庭  
エ 地域とのかかわり・地域での活動  
オ 生活  
カ 心の状態

(10) 選挙投票への意識による比較..... 52

ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分  
イ 積極的政治参加群と政治不参加群の比較方法  
ウ 家族・家庭  
エ 地域とのかかわり・地域での活動  
オ 生活  
カ 非行

## 1 調査の目的

青少年及び成人の意識並びに行動を調査することにより、その実態を把握し、過去に実施した調査結果との時間経過による変化を分析し、青少年施策の基礎資料を得ること。

また、調査結果は、「とっとり若者自立応援プラン」の策定の基礎資料とすること。

## 2 調査範囲・方法

無作為抽出した県内在住の青少年及び保護者、合計 5,388 名を対象に調査票を配布、回収した。

(内訳)

区 分	調査票配布数 A	調査票不達数 B	回収数 C	回収率 (%) C / (A-B)
小学2年生 (児童)	450	0	448	99.6
小学5年生 (児童)	476	0	470	98.7
中学2年生 (生徒)	477	0	468	98.1
高校2年生 (生徒)	441	0	438	99.3
保護者	1,844	7	1,683	91.6
青年	1,700	16	383	22.7
合 計	5,388	23	3,890	72.5

## 3 調査の基準日

平成 28 年 7 月 1 日

## 4 主な調査内容

生活習慣、家庭・家族、学校生活、友人関係、地域とのかかわり、進路・職業観、心の状態、非行・被害 など

## 5 報告書の見方

- (1) nは質問に対する有効回答者数で、割合(100%)が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 質問には、全員が1つの回答を選ぶもののほか、前問で特定の回答とした一部の回答者のみに対して続けて行う質問と1回答者が2つ以上の回答をすることができる質問がある。2つ以上を回答する質問では、1つの選択肢の回答者の合計を有効回答者数で割った比率である。(各選択肢の比率の合計は、100%を超える場合がある。)
- (3) 結果数値は、小数点以下第二位を四捨五入してあるので、内訳の合計が計(100.0%)に一致しないこともある。
- (4) 本文中の「問」は、特に断りがないものは、高校2年の調査票の問を記載している。
- (5) 過去の調査と比較するグラフ、表などで、「-」と表示されている項目は、当該調査でその選択肢がなかったことを示す。

## 6 調査についての問合せ先

鳥取県福祉保健部子育て王国推進局青少年・家庭課

電話：0857-26-7076

## 7 調査結果の概要

### (1) 家族・家庭

#### ア 同居家族

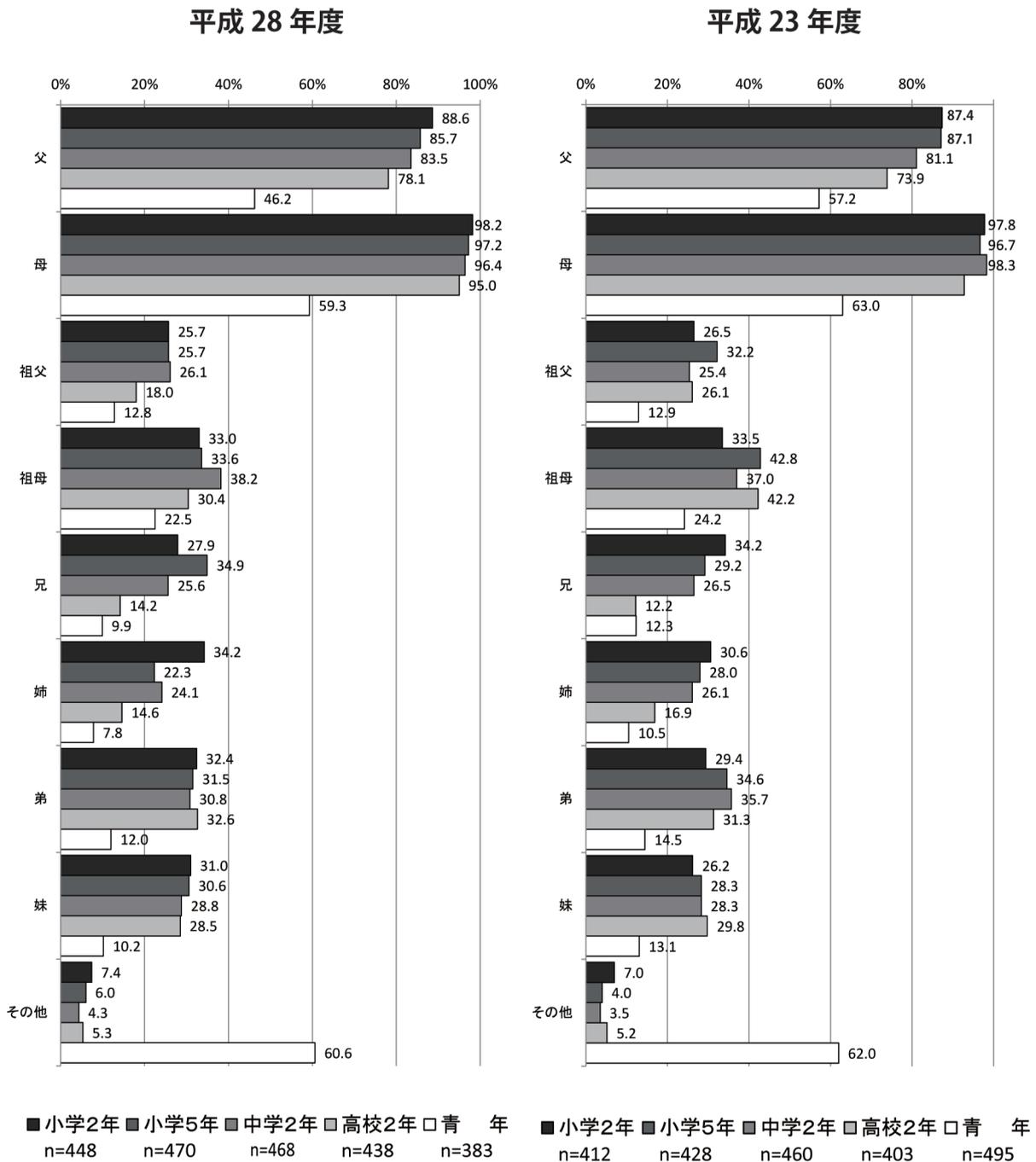
問 今、あなたといっしょに住んでいるのはだれですか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

父と同居の割合と母と同居の割合を比較すると、全ての年代で10～20%程度母と同居の割合が高い。

平成23年度と比較すると、祖父・祖母との同居の割合はほとんどの年代で減少している。

#### 同居家族

図1



▶▶ イ 家庭生活の満足度

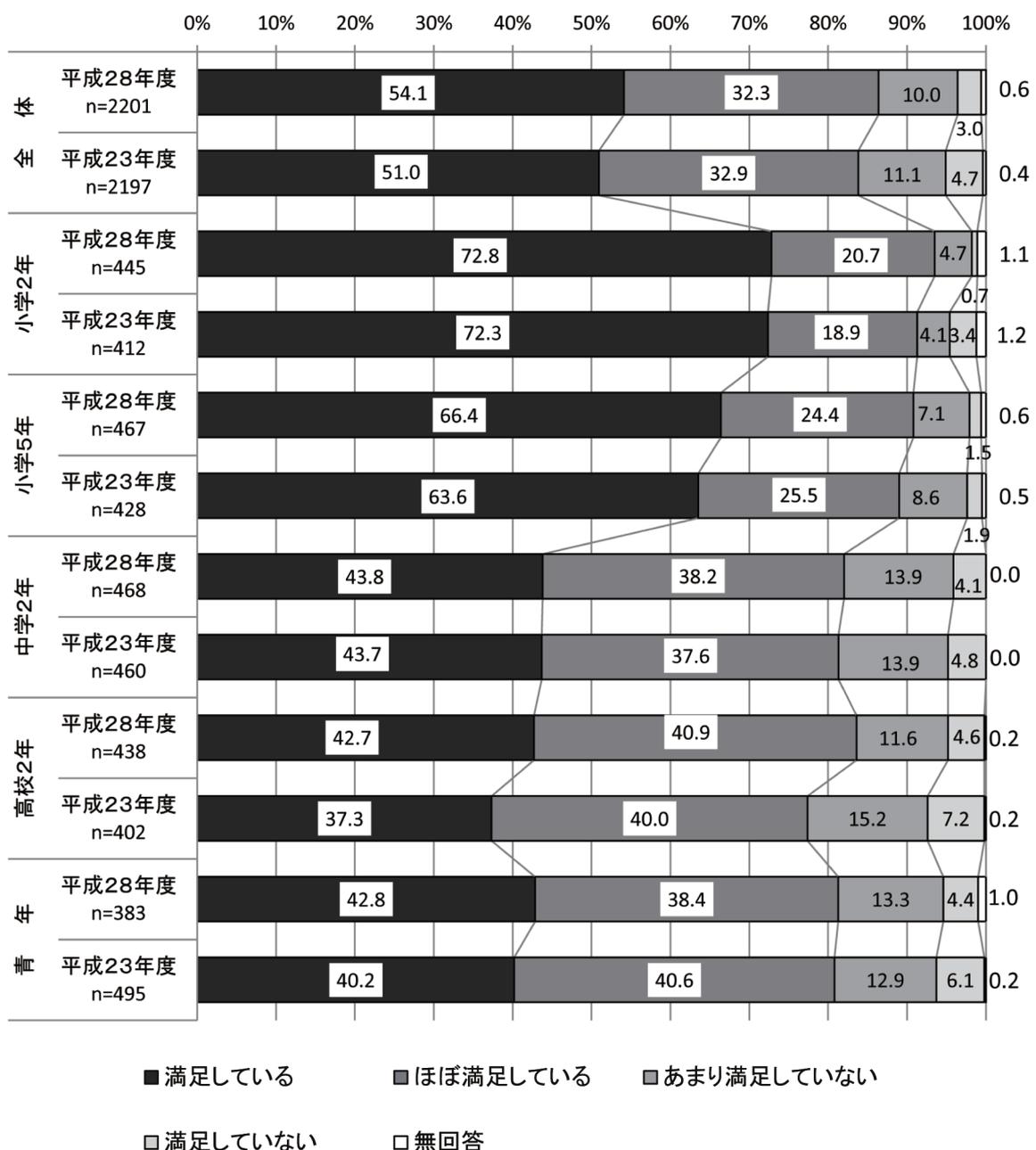
問 あなたは、家庭での生活に満足していますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた割合は、各年代とも8割を超えている。  
 また、平成23年度と比較すると、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた割合は、いずれの年代でも上昇している。

「満足している」の割合は、小学2年、小学5年の約7割、中学2年、高校2年、青年の約4割で、年齢が上がるにつれ減少している。

家庭生活の満足度

図2



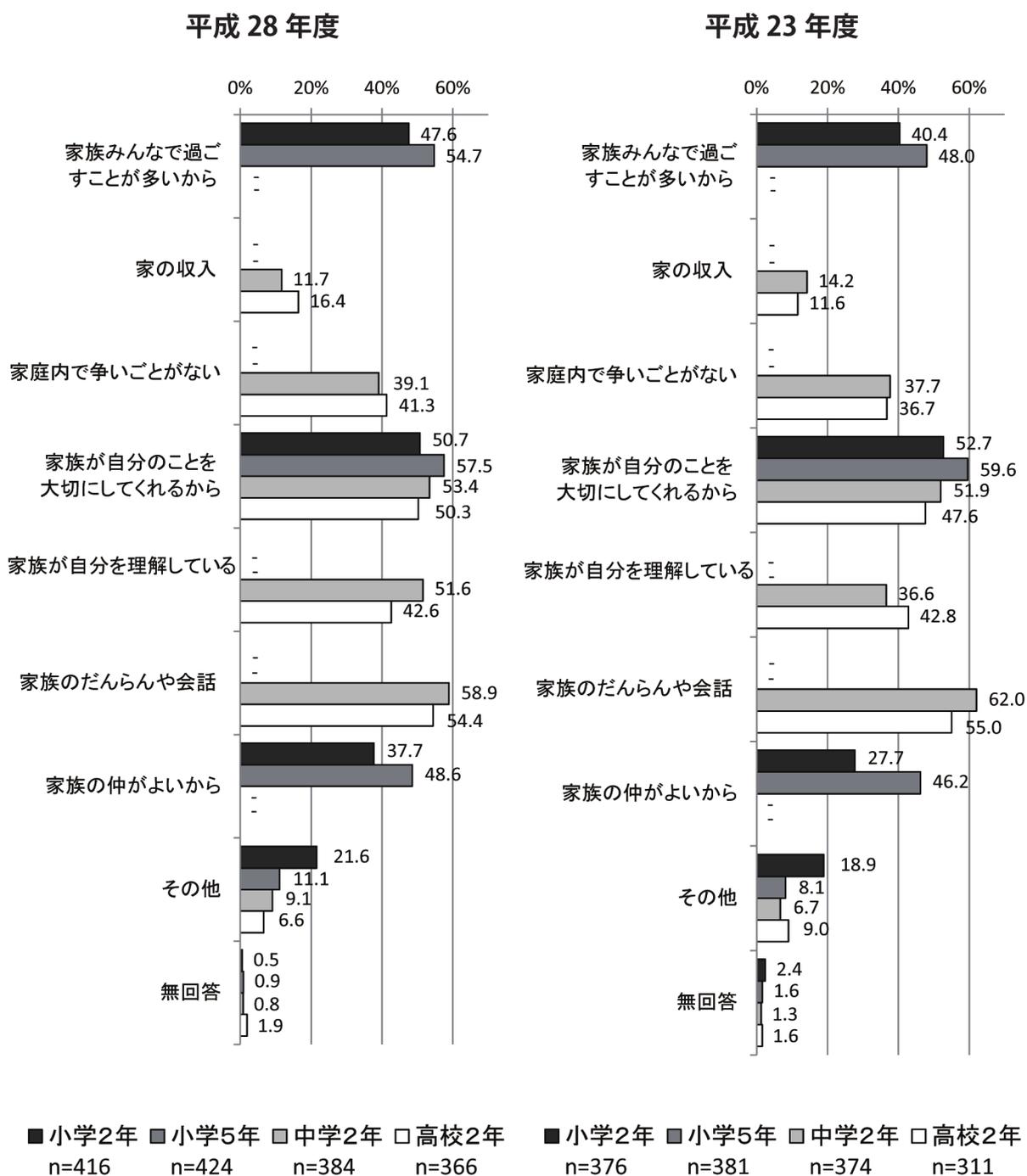
問 質問 25 (家庭生活の満足度) で「1 満足している」、「2 ほぼ満足している」を選んだ人に質問します。満足している理由は何ですか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

各年代とも「家族が自分のことを大切にしてくれるから」が5割以上となっている。小学2年、5年では「家族みんなで過ごすことが多いから」が4割～5割、中学2年、高校2年では「家族のだんらんや会話」が5割以上であった。

一方で、家庭生活の満足の理由として、「家の収入」を選んだ割合は2割以下であった。(中学2年、高校2年にのみ質問)

家庭生活満足の理由

図3

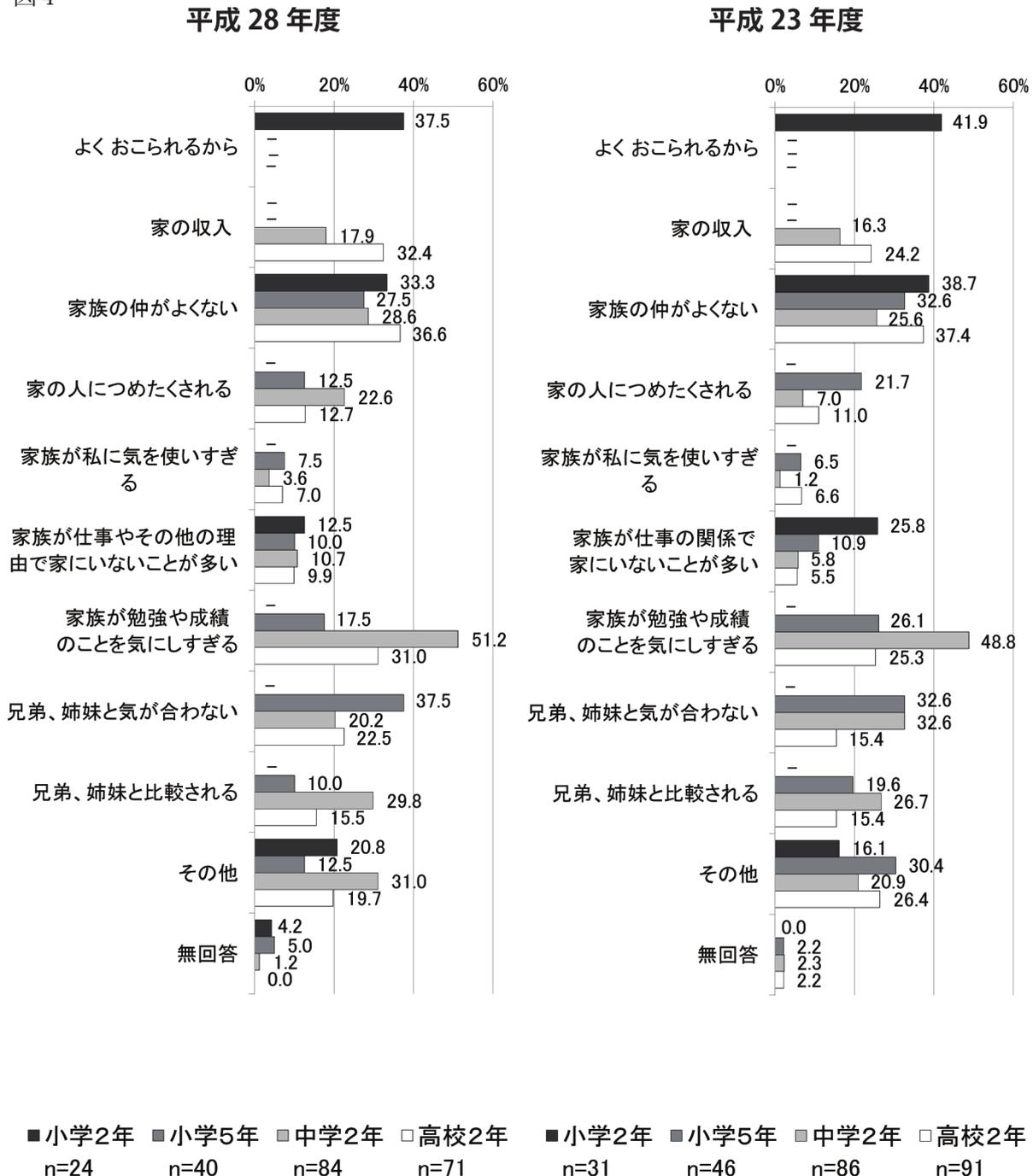


問 質問 25 (家庭生活の満足度) で「3 あまり満足していない」、「4 満足していない」を選んだ人に質問します。満足していない理由は何ですか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

小学2年では、「よくおこられるから」を選ぶ者が、小学5年では「兄弟・姉妹と気が合わない」を選ぶ者が最も多くいずれも4割弱あった。中学2年では「家族が勉強や成績のことを気にしすぎる」が5割を超えている。各年代とも共通して、3割前後が「家族の仲がよくない」をあげている。

### 家庭生活不満足の原因

図4



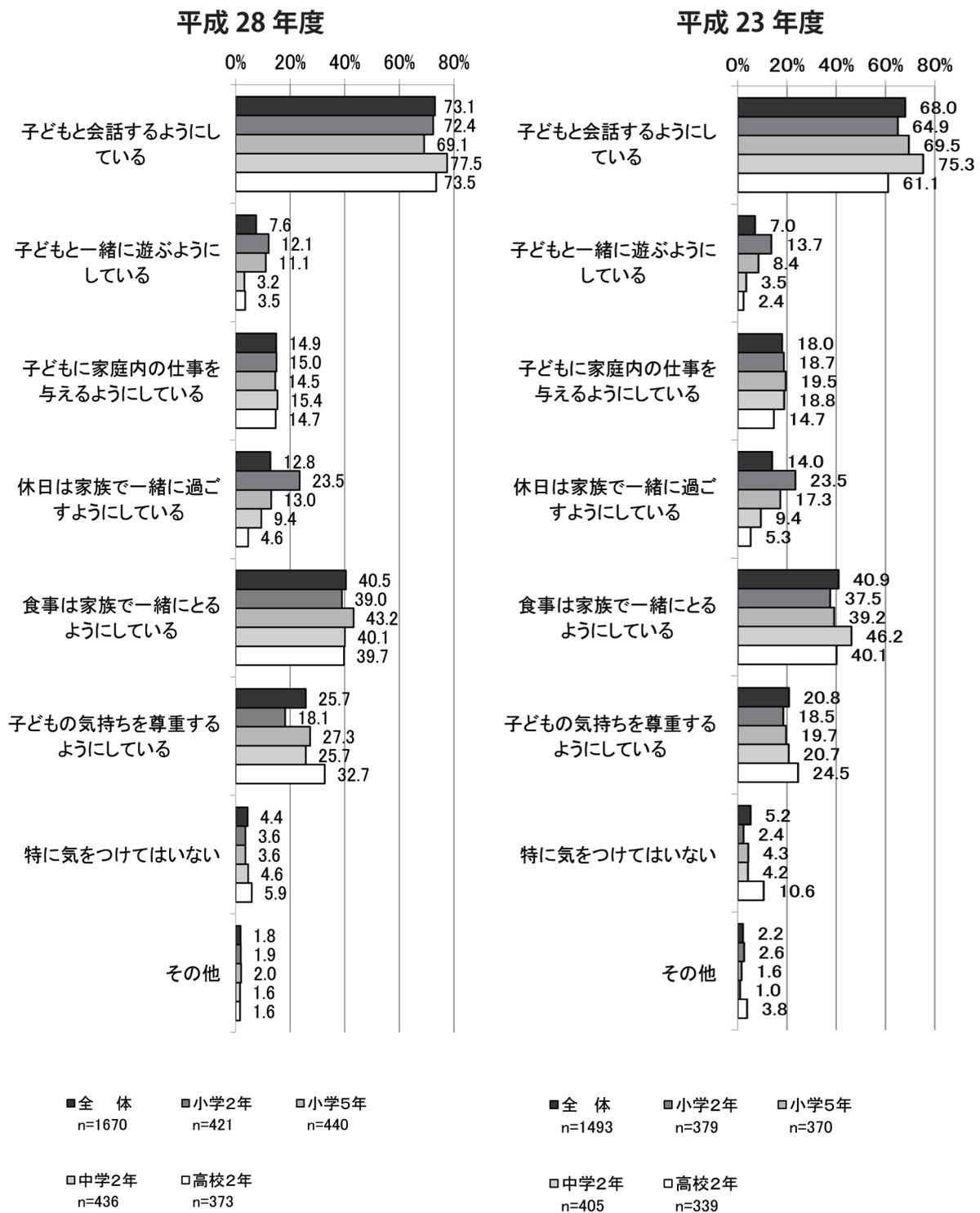
ウ 保護者が子育てで心がけていること

問 あなたの家庭で特に気をつけていることはどのようなことですか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

いずれの年代の保護者の回答でも「子どもと会話するようにしている」が一番多く、「食事は家族で一緒にとるようにしている」が続いている。

保護者が子育てで心がけていること

図5



▶▶ エ 青少年に関する問題への保護者の関心

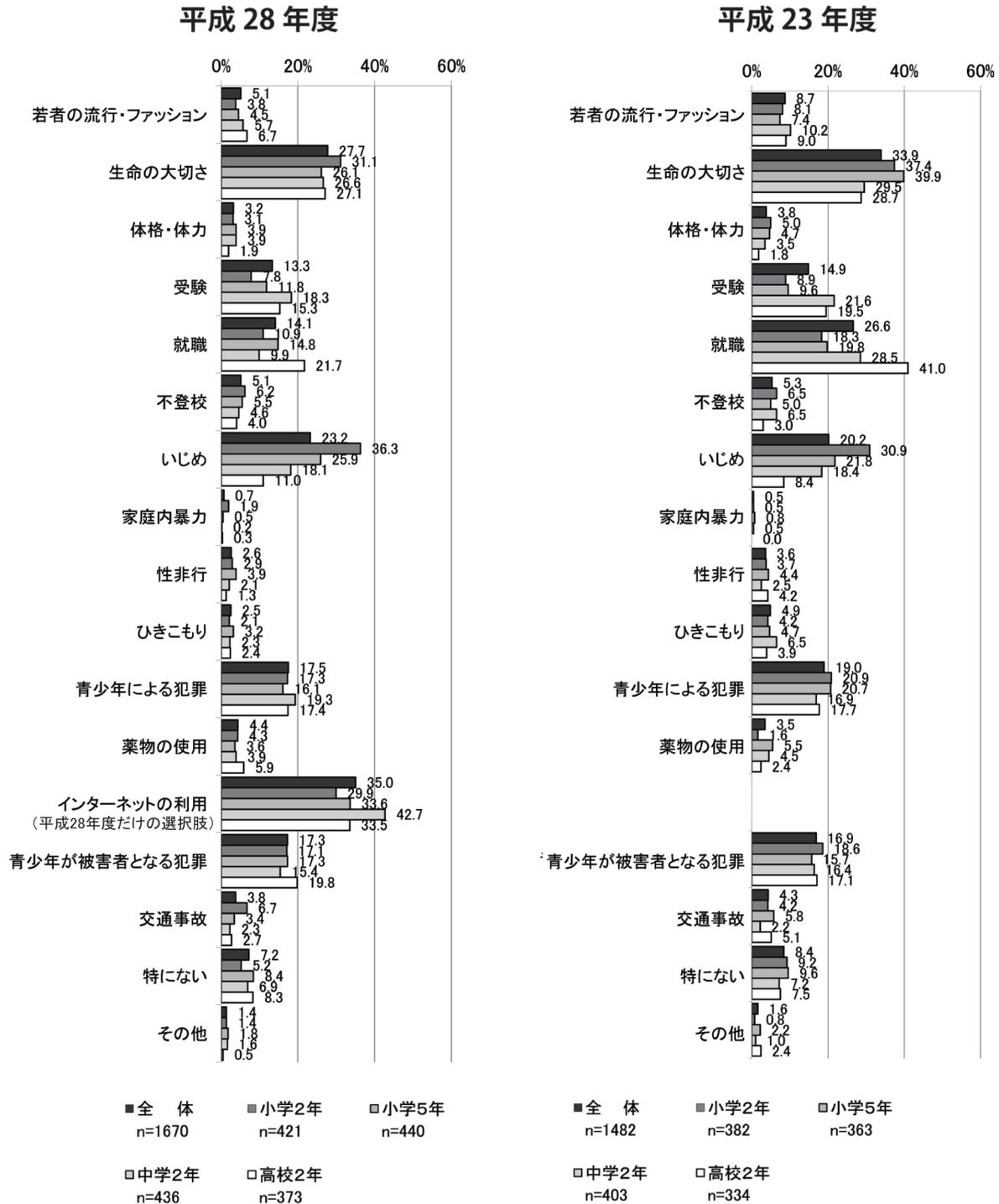
問 あなたは、青少年に関係するどのようなことについて関心を持っていますか。次の中からあてはまる番号を2つまで選んで○をつけてください。

「インターネットの利用」及び「命の大切さ」がどの年代でも高い割合を占めている。中学2年の保護者では「いじめ」が最も多い。

平成23年度と比較すると、「就職」の割合がどの年代でも減少している。

青少年に関する問題への保護者の関心

図6



▶▶オ 家庭での指導の内容

問 あなたが、大人の家族（兄弟、姉妹以外の家族）からよく注意されるのはどんなことですか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。  
 （青年と保護者は自分が家庭で注意されて良かったこと）

小学校2年から高校2年のいずれの年代においても、大人の家族からよく注意されることとして最も多いのは「勉強のこと」であり、特に中学2年と高校2年では過半数が選択している。

一方、青年や保護者が注意されて良かったこととして「勉強のこと」を選んでいるのは1割に満たなかった。

表1

家庭での指導の内容

(単位:%)

区分		勉強のこと	整理・整とんのこと	時間を守る	身だしなみを整える	金銭や物を大切に	礼儀正しくすること（あいさつ、ことばづかい、返事など）	自分のことは、自分ですること	自分が言ったことには責任をもつこと	ねばり強く物事をやり通すこと
全体	n=3775	25.4	23.2	22.0	7.6	19.8	32.5	19.7	12.6	12.5
小学2年	n=448	40.4	32.8	31.5	14.7	23.9	30.4	27.5	33.5	23.7
小学5年	n=447	40.0	31.8	20.8	5.8	15.4	15.4	17.4	9.4	6.9
中学2年	n=430	62.3	33.3	19.5	6.3	15.6	14.2	16.7	7.4	4.2
高校2年	n=432	53.5	35.9	15.3	9.7	18.8	15.0	22.7	10.4	6.9
青年	n=362	8.6	46.4	14.6	1.9	0.6	26.0	3.0	6.9	14.9
保護者	n=1656	4.0	7.2	23.9	7.2	25.4	48.5	21.9	10.9	13.9

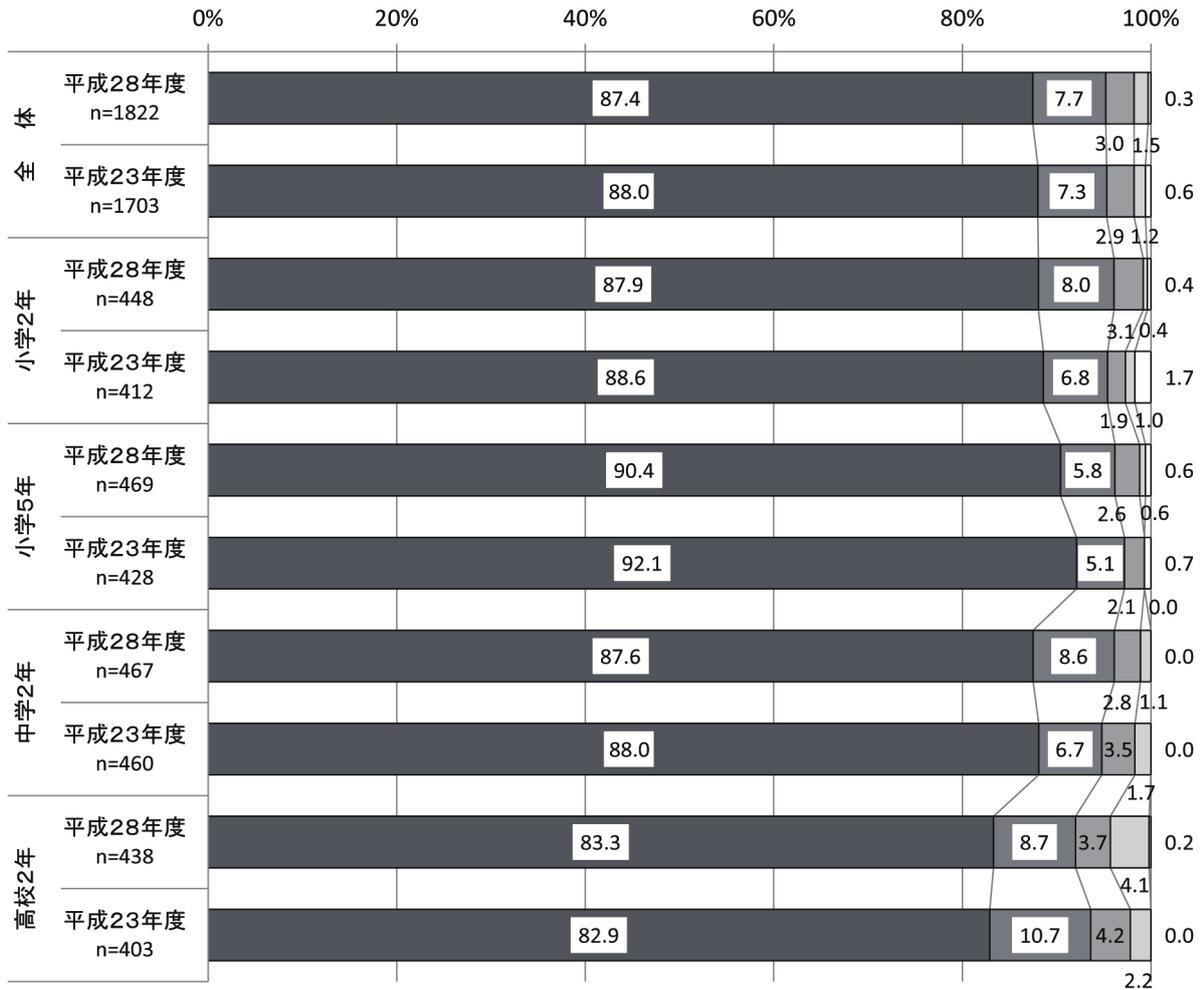
選択肢	進んで新しい方法を考えること	落ち着いて行動すること	相手と相対し、理解し、異なる見方を尊重すること	のれんをまとめること	集団の一員として働くこと	社会のルールを守り、迷惑を人にかからないこと	正しい行いをしよう	くまなく働くこと	こらいをこらえること	注意されないこと(特になし)	その他	無回答
全体	5.5	6.7	8.6	5.1	24.6	6.9	7.1	5.2	2.7	1.0		
小学2年	-	22.3	16.5	13.2	21.9	-	18.8	8.0	8.9	0.0		
小学5年	2.5	11.6	0.9	2.2	6.5	5.8	5.4	8.5	4.3	0.9		
中学2年	1.6	7.2	4.9	1.2	7.2	4.9	3.3	10.2	3.5	1.2		
高校2年	0.9	8.1	4.9	1.4	12.5	7.4	2.5	8.3	1.9	0.7		
青年	45.6	2.5	1.1	0.6	4.1	12.2	3.3	6.1	0.3	2.8		
保護者	1.3	1.5	12.2	6.6	42.4	8.3	7.4	1.1	1.1	0.8		

問（児童・生徒）あなたは朝ごはんを食べていますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。  
 問（保護者）お子さんは朝ごはんを食べていますか。一番近いと思う番号に1つ○をつけてください。

**朝ご飯を食べる**

どの年代でも「毎日食べている」と回答しているのはそれぞれ8割以上である。「時々食べている」と合わせると9割を超えている。

図7



■毎日食べている ■時々食べている ■あまり食べていない □いつも食べていない □無回答

**朝ご飯を食べる（保護者）**

保護者から見た場合、9割以上が子どもが朝ごはんを「毎日食べている」と回答している。

図8



■毎日食べている ■時々食べている ■あまり食べていない □いつも食べていない □無回答

## (2) 地域とのかかわり

### ア 地域での活動への参加状況

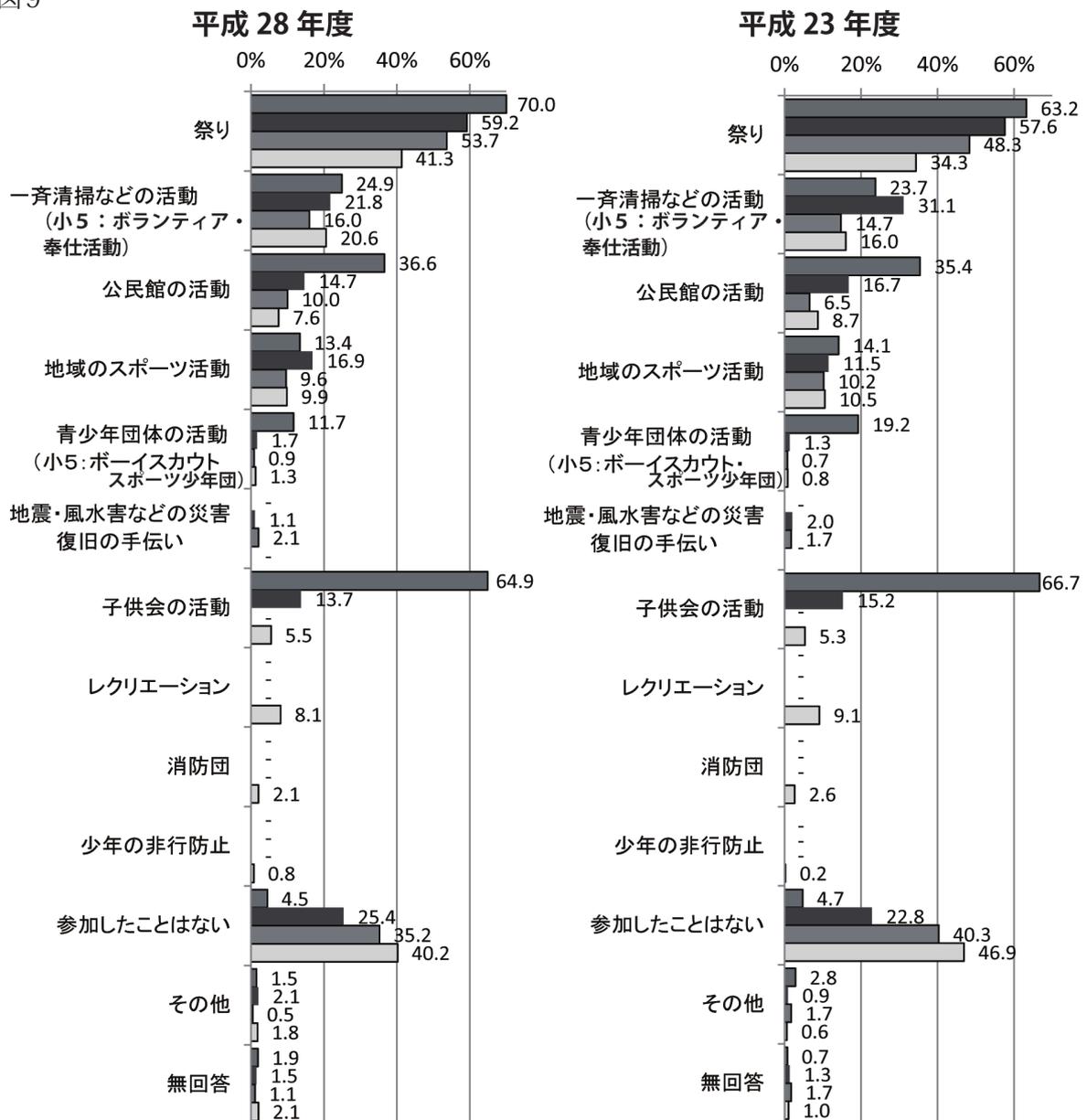
問 地域の活動の中で、この1年間にあなたが参加したものはどれですか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

全体から「参加したことはない」を除いた割合は、小学5年で約96%、中学2年で約75%、高校2年で約65%、青年で約60%であり、年代が上がるにつれ、地域活動に参加する者の割合が減少している。参加した活動の内容としては、各年代とも「祭り」への参加が最も多くなっている。

平成23年度と比較すると、高校2年及び青年で「参加したことはない」の割合が5%以上減少している。

#### 地域での活動への参加状況

図9



■ 小学5年 n=470  
■ 高校2年 n=438

■ 中学2年 n=468  
□ 青年 n=383

■ 小学5年 n=427  
■ 高校2年 n=402

■ 中学2年 n=460  
□ 青年 n=495

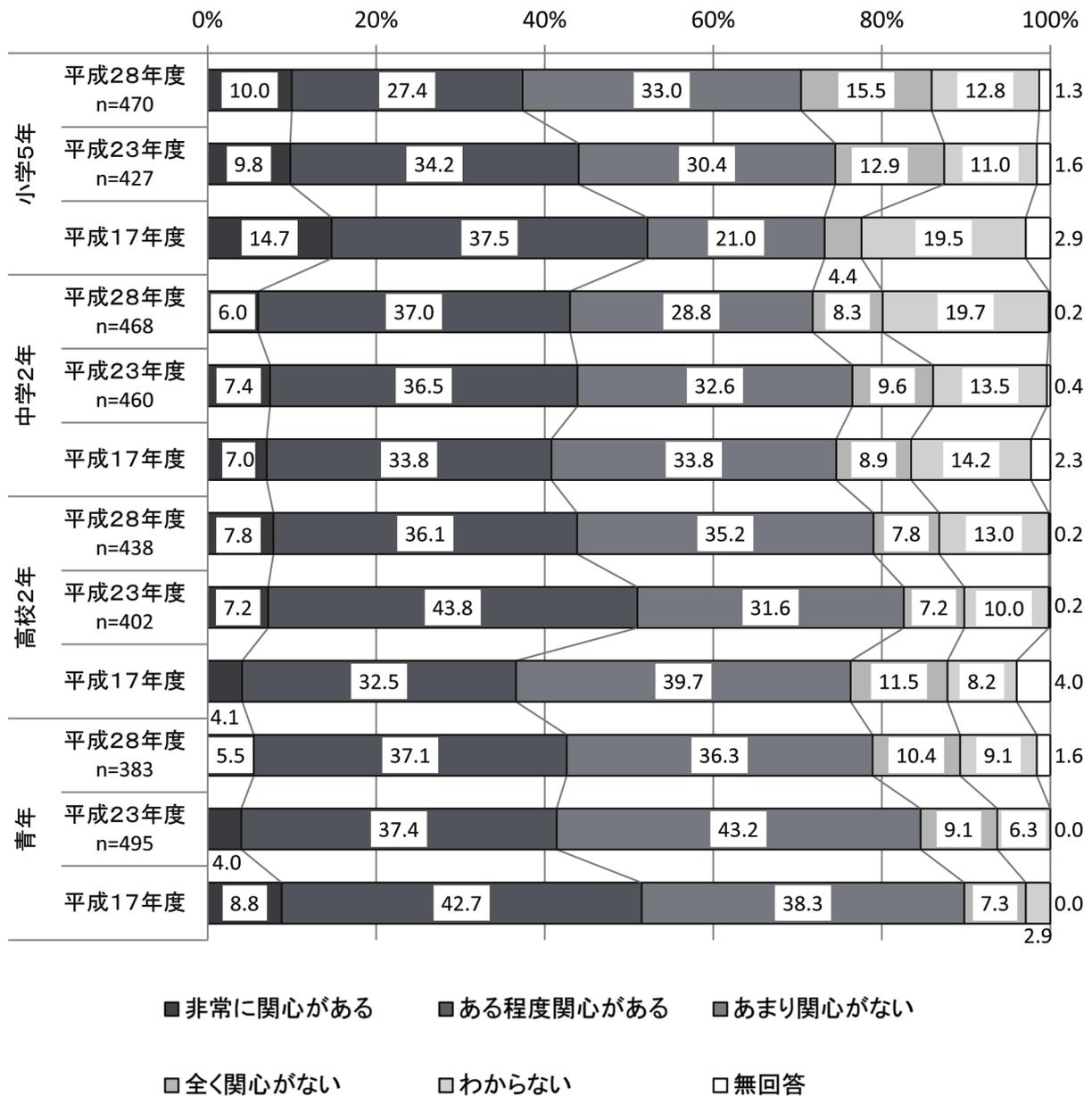
▶▶ イ ボランティアへの関心

問 あなたは、ボランティア活動に対して、どの程度関心がありますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合を平成23年度調査と比較すると、小学5年と高校2年では約7%減少している。

ボランティアへの関心

図10



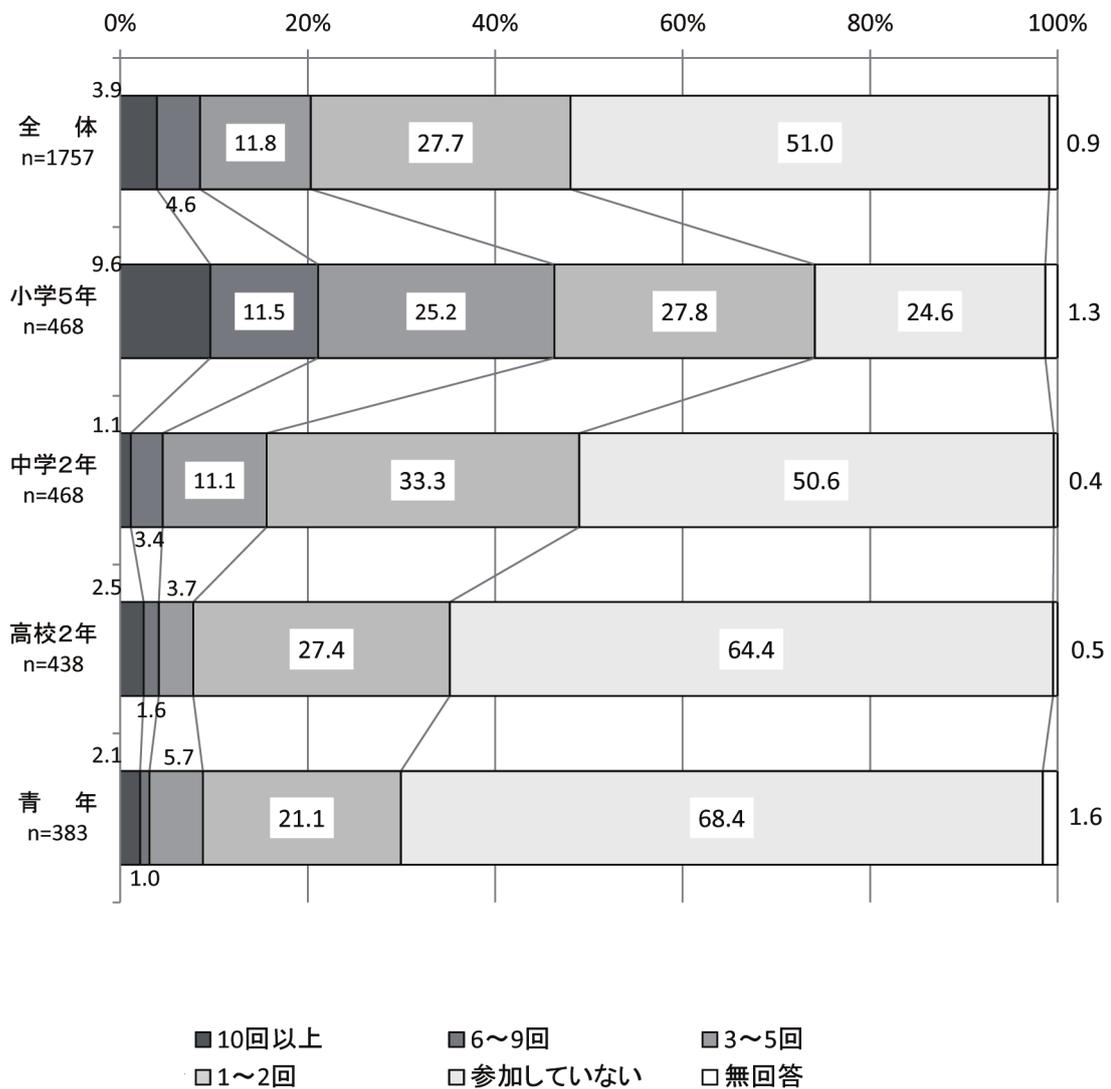
▶▶ ウ ボランティアへの参加

問 あなたは、この1年間に何回程度ボランティア活動に参加しましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「参加していない」を除けば、いずれの年代でも「1～2回」の回答が2割～3割で最も多かった。1回以上参加した割合は、小学5年で約74%、中学2年で約49%、高校2年で約35%、青年で約30%と、年齢が上がるにつれ減少している。

ボランティアへの参加

図11



▶▶ Ⅰ 選挙投票についての意識

問 (中学2年、高校2年)  
 あなたは、18歳になったら選挙の投票に行きたいと思いますか。当てはまる番号に一つ○をつけてください。  
 (青年)  
 あなたは、選挙の投票を通じて国や地域の政策決定に参加することに関心がありますか。当てはまる番号に1つ○をつけてください。

「必ず行く」と「なるべく行く」の合計は中学2年、高校2年のそれぞれ7割弱であった。  
 また青年に対し選挙投票を通じた地域の政策決定への参加についての意識を尋ねたところ、6割弱が「関心がある（非常に関心がある、ある程度関心があるの合計）」と回答した一方、「関心がない（あまり関心がない、全く関心がないの合計）」と回答した割合も4割弱あった。

選挙投票についての意識

図12

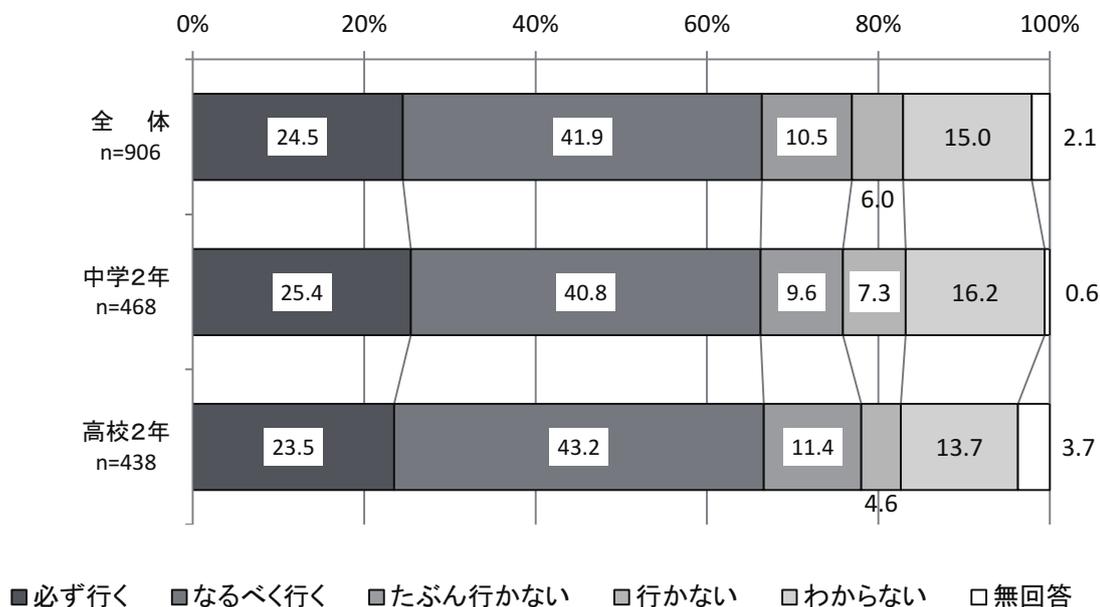
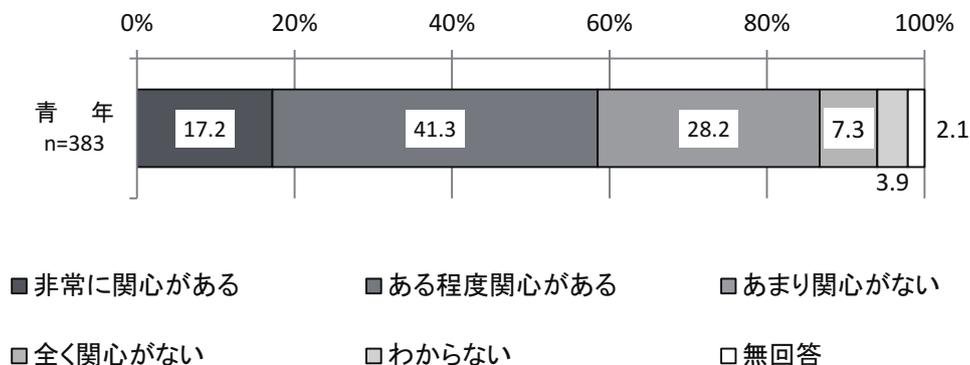


図13



▶▶ オ 児童生徒と地域の大人との親しさ

問 あなたは、近所の大人とどの程度親しいですか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

いずれの年代でも「会えばあいさつをする」の割合が4～5割を占めており、最も多い。  
また平成23年度と比べると、小学5年以外では「時々話をする」の割合が増加している。

児童生徒と地域の大人との親しさ

図14



▶▶ カ 保護者から見た地域の子どもの親しさ

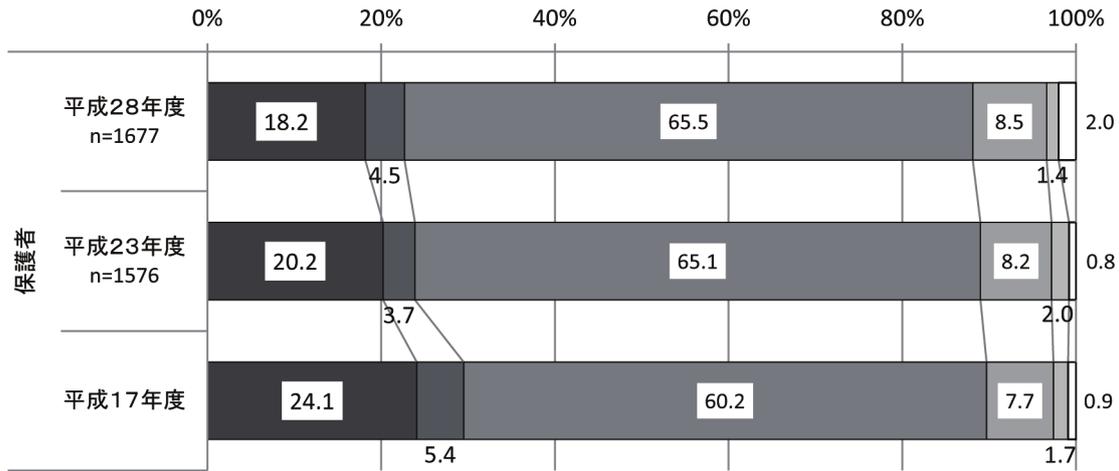
問 あなたは、近所の中学生・高校生とどんなつきあいをしていますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

「会えばあいさつをする」の割合が6割以上を占めており、最も多く、平成17年度から平成23年度、平成28年度の調査にかけて、徐々に増加している。

一方、「あまり合わないから顔も知らない」の割合は徐々に減少している。

保護者から見た地域の子どもの親しさ

図15



- あまり合わないから顔も知らない
- 会えばあいさつをする
- 顔は知っているけれどもあいさつはしない
- ときどき話をする
- 学校のことや家のことなどをよく話す
- 無回答

### (3) インターネット

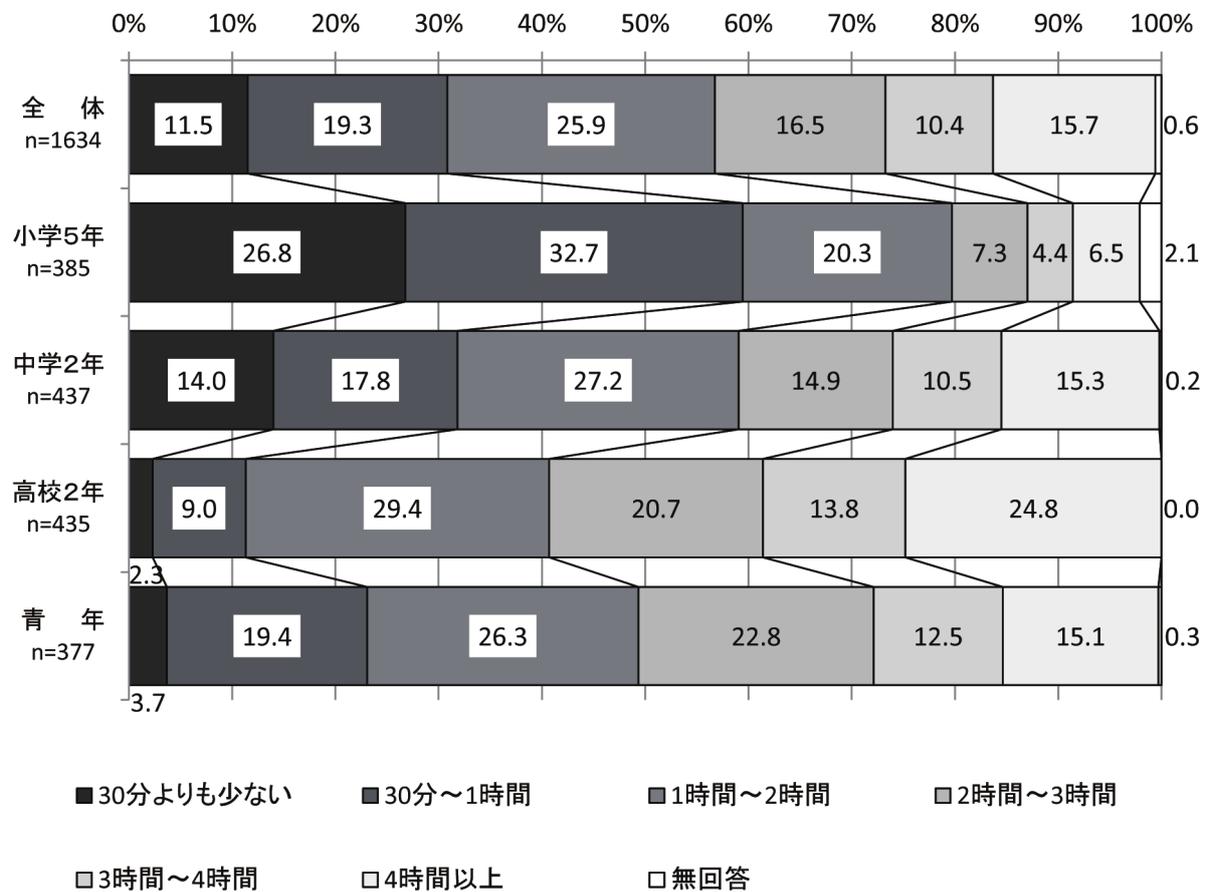
#### ▶▶▶ ア インターネットの利用時間

問 質問 14 (インターネット機器の利用状況) でひとつでも○を選んだ人に質問します。あなたは、一日平均どれくらいの時間インターネットを利用していますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

年代別にみると、一日のインターネットの平均利用時間について1時間未満と回答した割合は小学5年では約6割であったが、中学2年では約3割、高校2年では約1割、青年では約2割であった。小学5年を除く各年代で、最も回答が多かったのは「1時間～2時間」であった。また、高校2年の約4分の1が「4時間以上」と回答している。

インターネットの利用時間

図 16



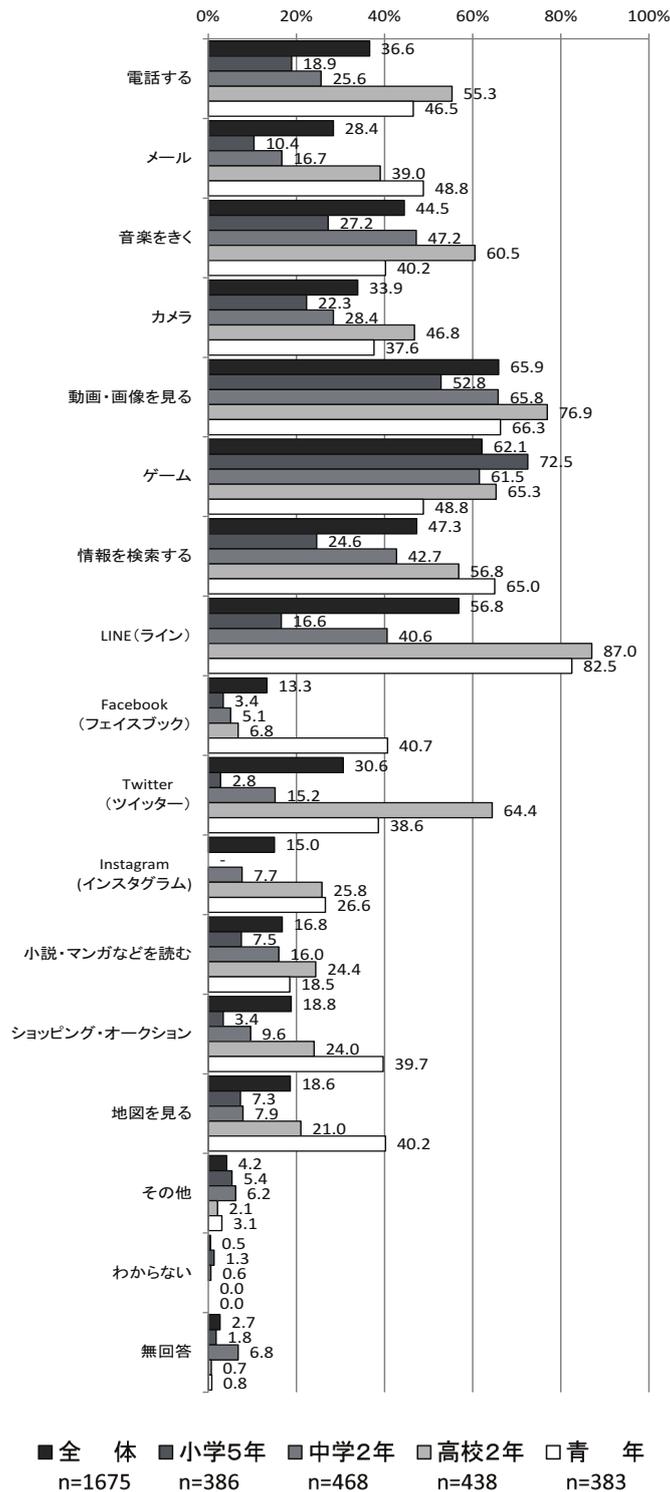
## ▶▶ イ インターネットの利用目的

問 質問 14 (インターネット機器の利用状況) でひとつでも○を選んだ人に質問します。インターネットを利用して何をしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

年代別に、回答の多い項目をあげると、小学5年では回答の多い順に「ゲーム」「動画・画像を見る」、中学2年では「動画・画像を見る」「ゲーム」、高校2年と青年では「LINE」「動画・画像を見る」であった。「LINE」は中学2年の約4割、高校2年と青年では約8割から9割が回答している。

### インターネットの利用目的

図 17



## ウ インターネット機器の利用状況

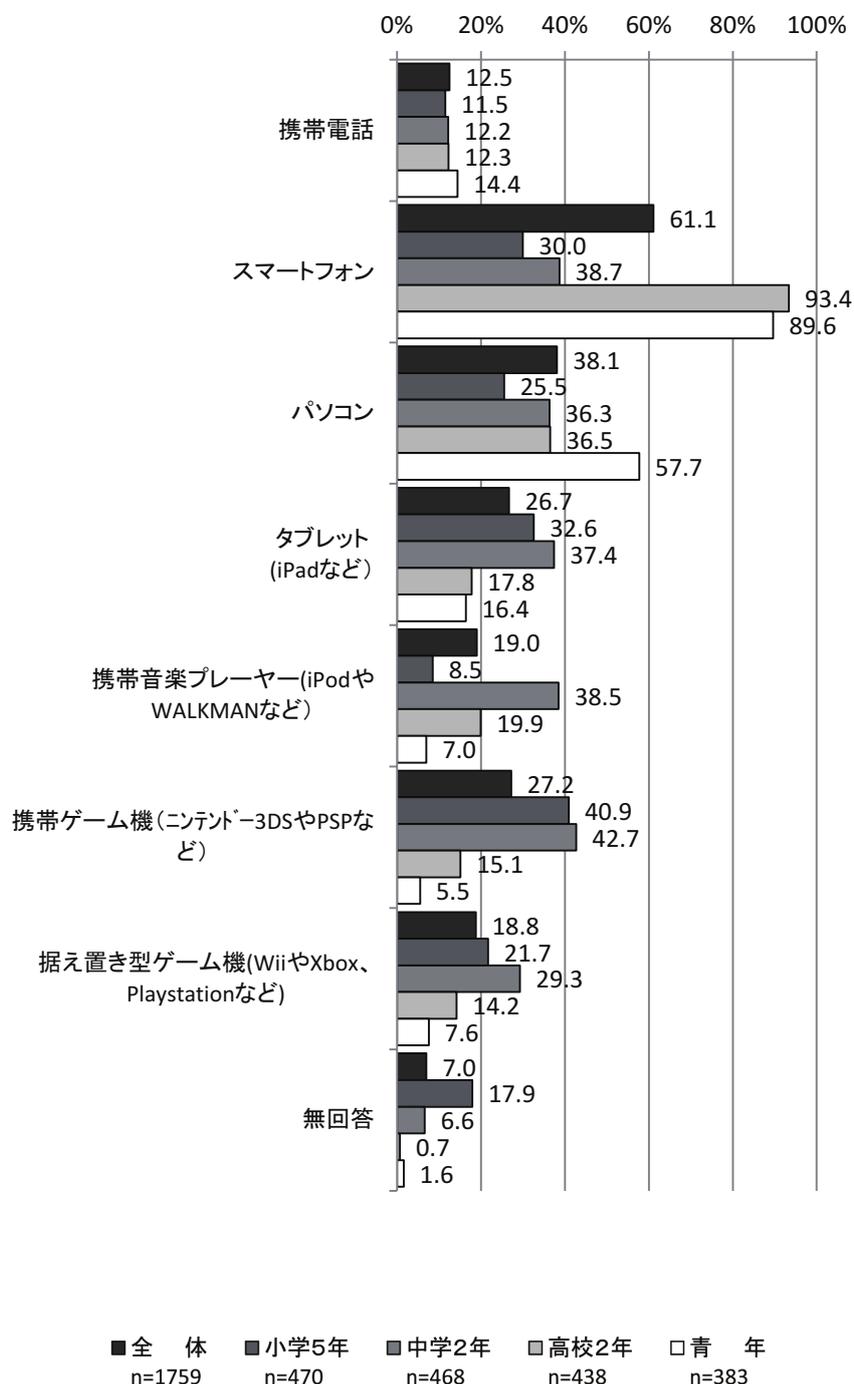
問 あなたは、以下の機器でインターネットを利用していますか。ふだん利用しているものすべて選んで○をつけてください。

年代別に回答の多い項目をみると、「携帯ゲーム機」の回答は小学5年と中学2年で多く、高校2年と青年では約9割が「スマートフォン」と回答している。「携帯音楽プレイヤー」と回答した割合が最も高いのは中学2年であった。

※インターネットを利用する際に使用する機器を尋ねており、本人が所有している機器についての調査ではない。

### インターネット機器の利用状況

図 18



▶▶ エ ペアレンタル・コントロールの状況

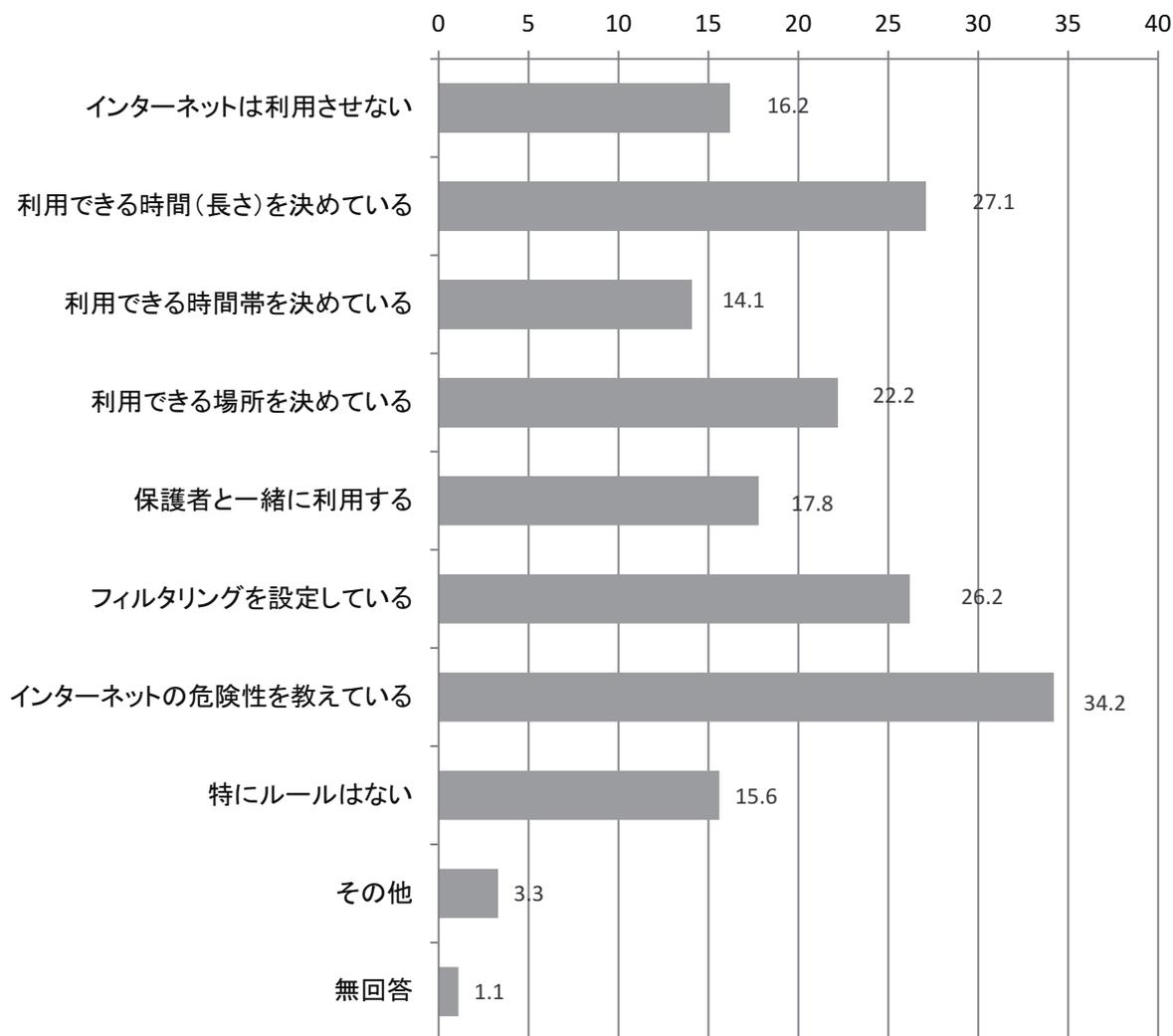
問 あなたの家庭で、お子様のインターネット（携帯電話・スマートフォン・パソコン・ゲーム機・音楽プレーヤー等による）の使用状況について、あてはまる番号をいくつでも選んで○をつけてください。

「インターネットは利用させない」の割合が約16%ある一方、「特にルールはない」の割合も同程度であった。保護者のペアレンタル・コントロールの状況として、最も多かった回答は「インターネットの危険性を教えている」で、約34%が回答している。利用についての具体的なルールを定めている割合は、多い順に「利用できる時間（長さ）を決めている」（27.1%）、「利用できる場所を決めている」（22.2%）、保護者と一緒に利用する（17.8%）、利用できる時間帯を決めている（14.1%）であった。また、フィルタリングを設定している保護者は四分の一程度であった。

ペアレンタル・コントロールの状況

図19

(%)



n=1683

## (4) 学校生活・学習習慣

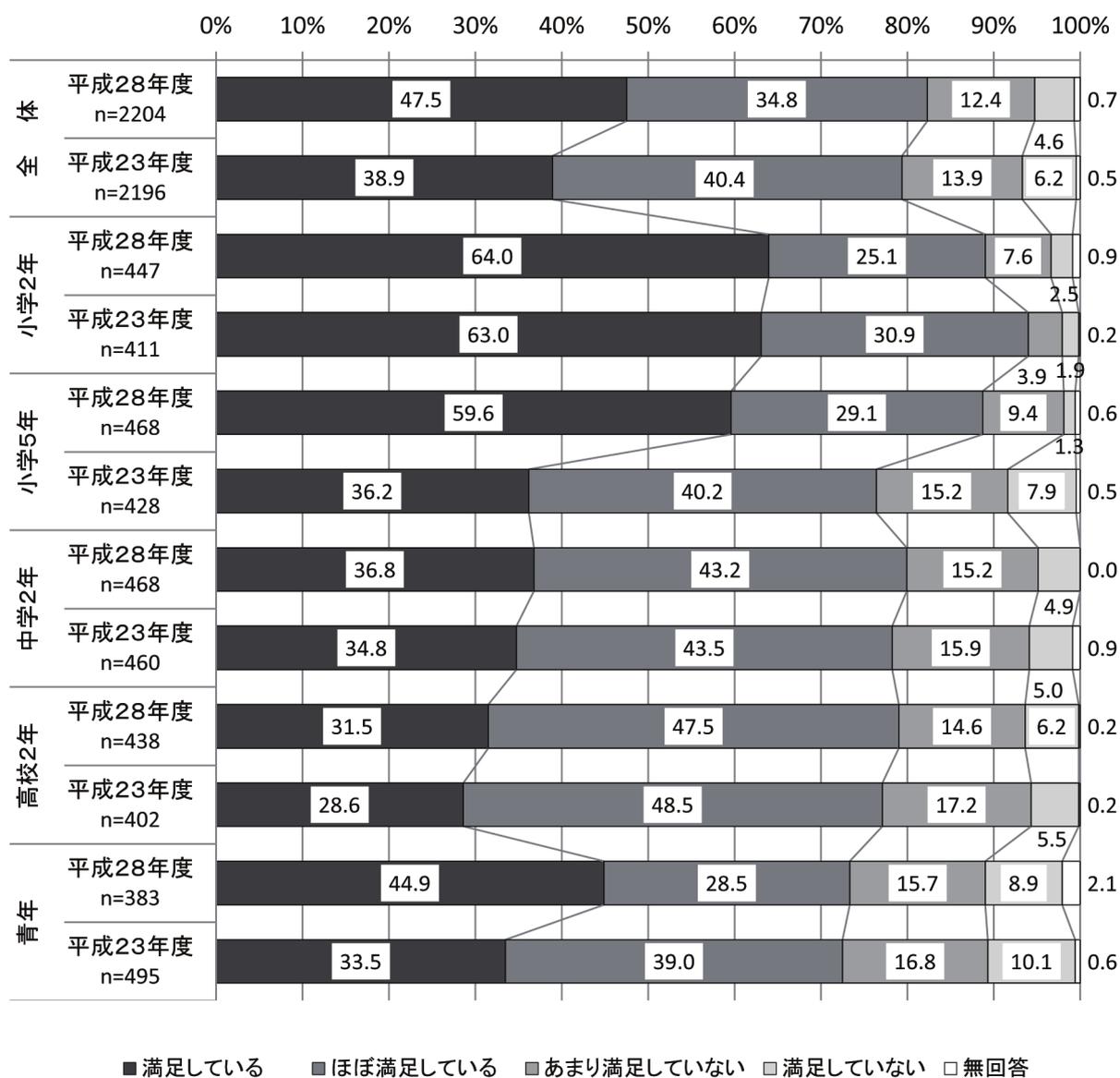
### ア 学校生活の満足度

問 あなたは、学校生活に満足していますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「満足」（「満足している」と「ほぼ満足している」の合計）を選んでいる割合は、小学生の約9割、中学2年、高校2年の約8割を占めている。「満足」の割合は、年代が上がるにつれて減少している。平成23年度と比べると、全ての年代で「満足している」の割合が増加している。

学校生活の満足度

図20



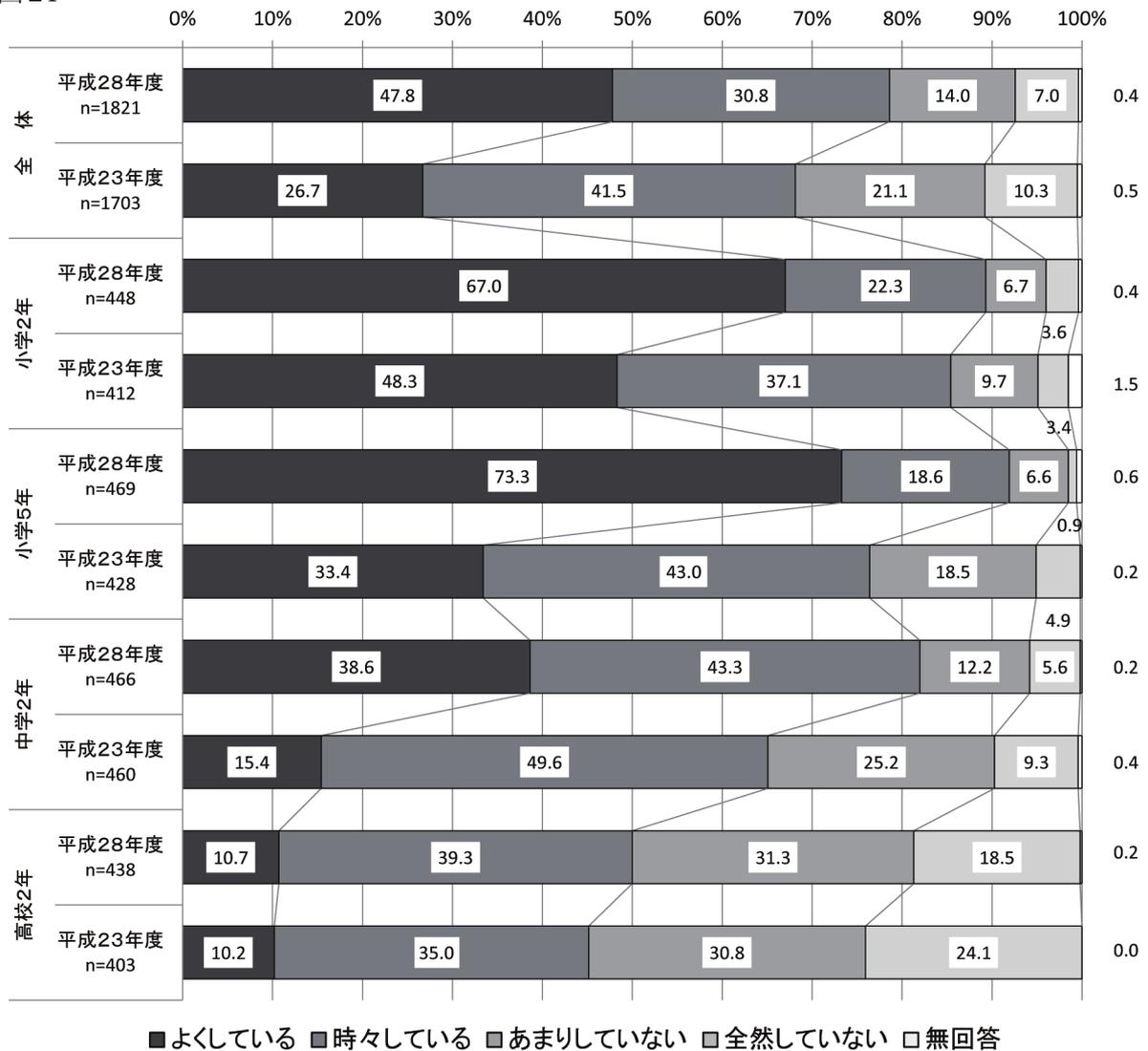
問 あなたは家で勉強していますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

**家で勉強する**

「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は小学5年から中学2年、高校2年と年代が上がるにしたがい低くなっている。

子ども全体の平均では「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は約8割であった。（平成23年度は、「進んで勉強する」）

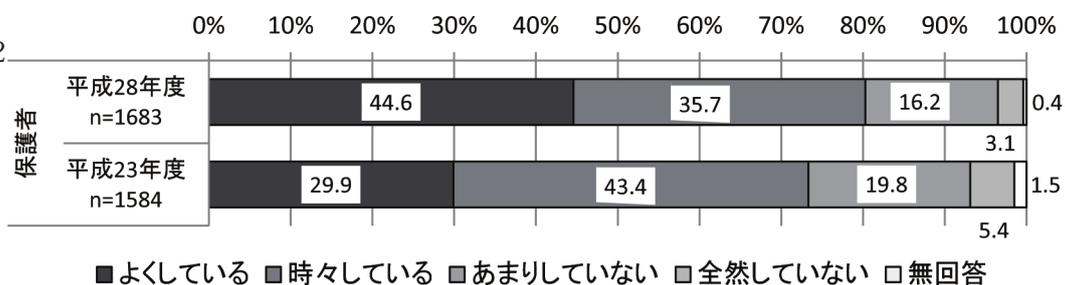
図21



**家で勉強する（保護者）**

「よくしている」「時々している」を選んだ割合が約8割あり、「家で勉強する」ことについて、子どもと保護者が同程度の認識をもっている。（平成23年度は、「進んで勉強する」）

図22



## (5) 心の状態

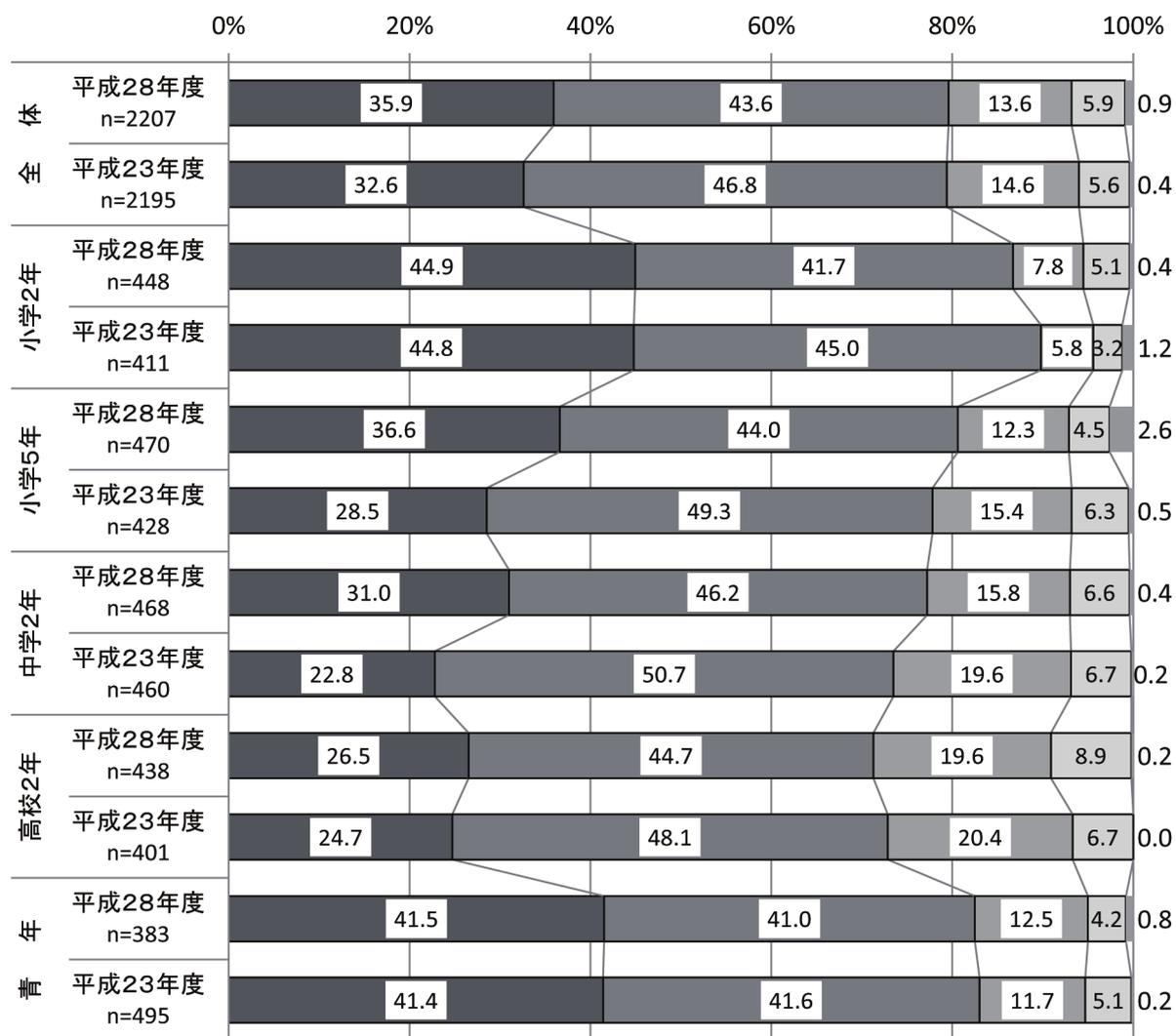
### ア 自己肯定感（自分には良いところがあると思う）

問 あなたは、自分には良いところがあると思いますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

どの年代でも「ある」と「どちらかといえばある」を合わせると7割以上である。年代別に見ていくと、「ある」と「どちらかといえばある」を合わせて一番多かったのは小学2年（約87%）であり、次に青年（約83%）、小学5年（約81%）と続いている。一番少なかったのは高校2年（約71%）である。平成23年度と比較すると、小学5年と中学2年では「ある」の割合が1割近く増加している。

#### 自己肯定感（自分には良いところがあると思う）

図23



- ある(はい)
- どちらかといえば、ある(どちらかといえばはい)
- どちらかといえば、ない(どちらかといえはいえ)
- ない(いいえ)
- 無回答

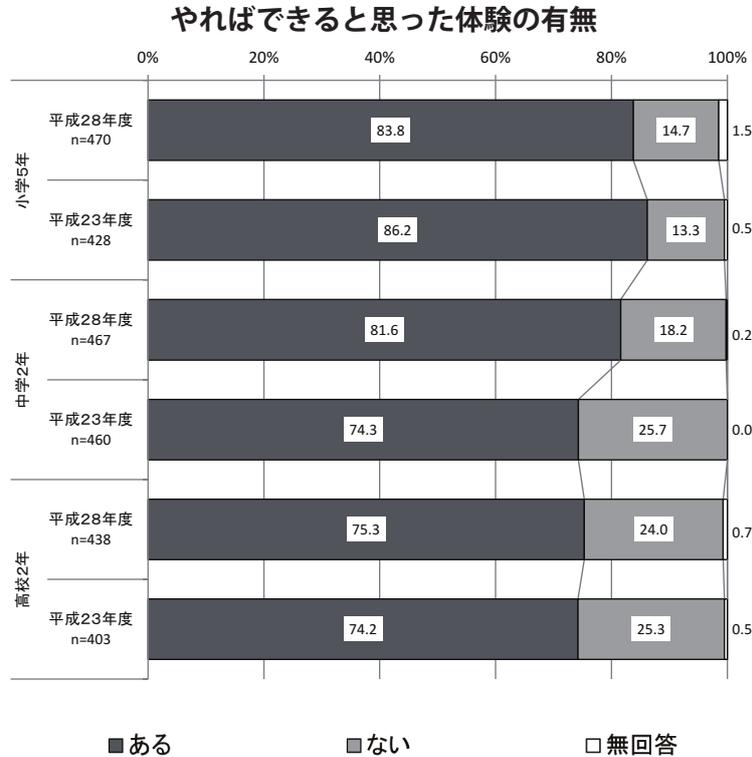
※ ( ) は青年の選択肢

▶▶ イ やればできると思った体験の有無

問 あなたは「自分もやればできるんだ」と思えるような体験をしたことがありますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「ある」と答えた割合は各年代とも高く、最も低い高校2年でも75%以上が「ある」としている。

図24



(参考) 平成17年度

図25

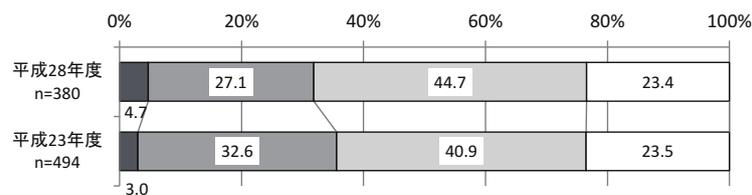


■ある(H17は「強くそう思う体験がある」と「少しはそう思える体験がある」の合計) ■ない □無回答

(青年)

**自分は何でもうまくやれる**

図26



■はい ■どちらかといえばはい □どちらかといえばいいえ □いいえ

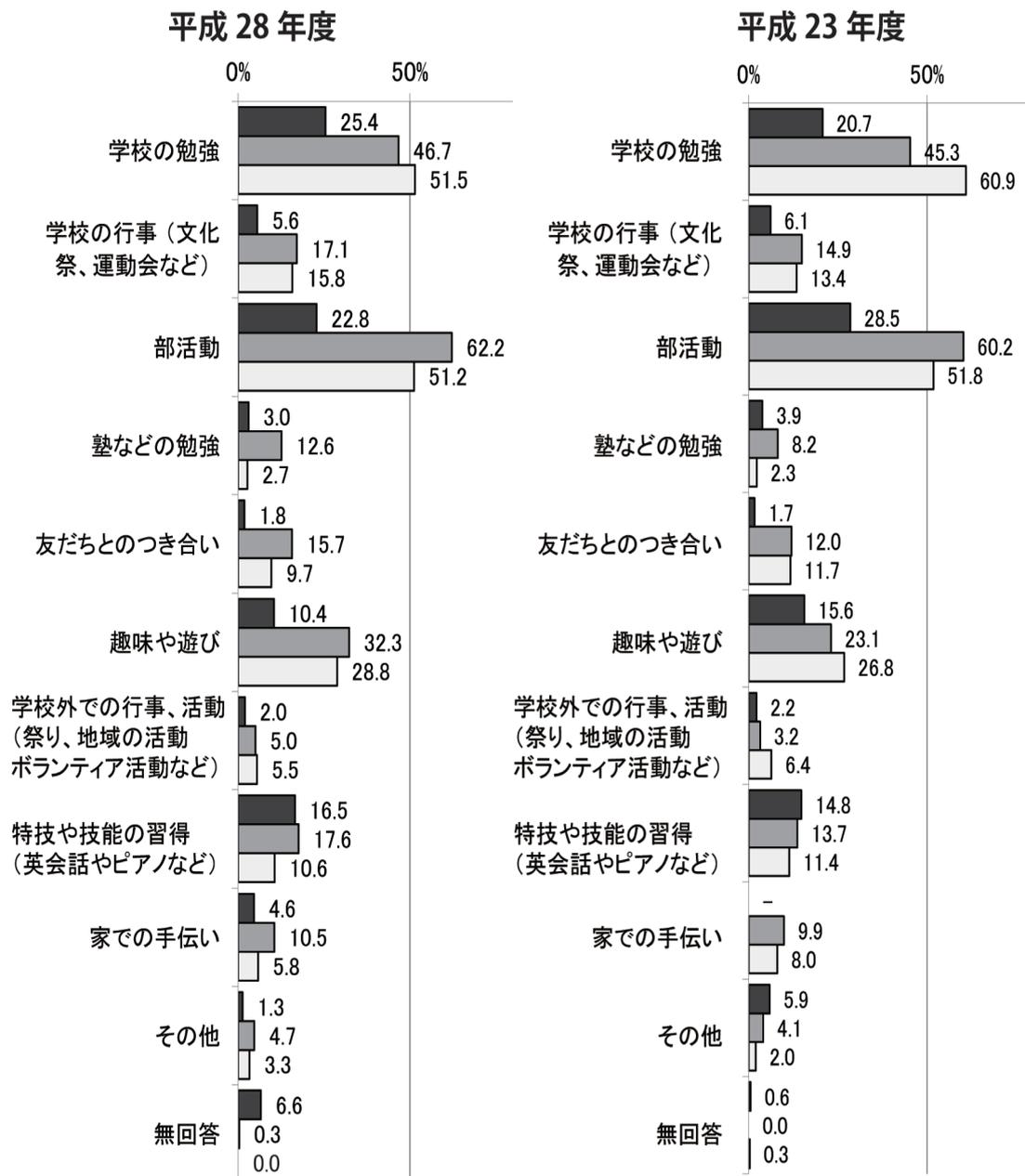
▶▶ ウ やればできると思った体験の内容

問 質問 19 (やればできると思った体験の有無) で、「1 ある」を選んだ人に質問します。どんなことで「自分もやればできるんだ」と思いましたか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。(小学校5年のみ、単一回答。)

回答の多い選択肢は「部活動」「学校の勉強」「趣味や遊び」であった。平成23年度と比較するとこの傾向に大きな変化はなかった。

やればできると思った体験の内容

図27



■ 小学5年n=394 ■ 中学2年n=381 □ 高校2年n=330 ■ 小学5年n=358 ■ 中学2年n=342 □ 高校2年n=299

▶▶ Ⅱ 青年が充実していると感じるとき

問 あなたは、何か打ち込んでやれることを持っていますか。それはどんなことですか。当てはまる番号を一つ選んで○をつけてください。

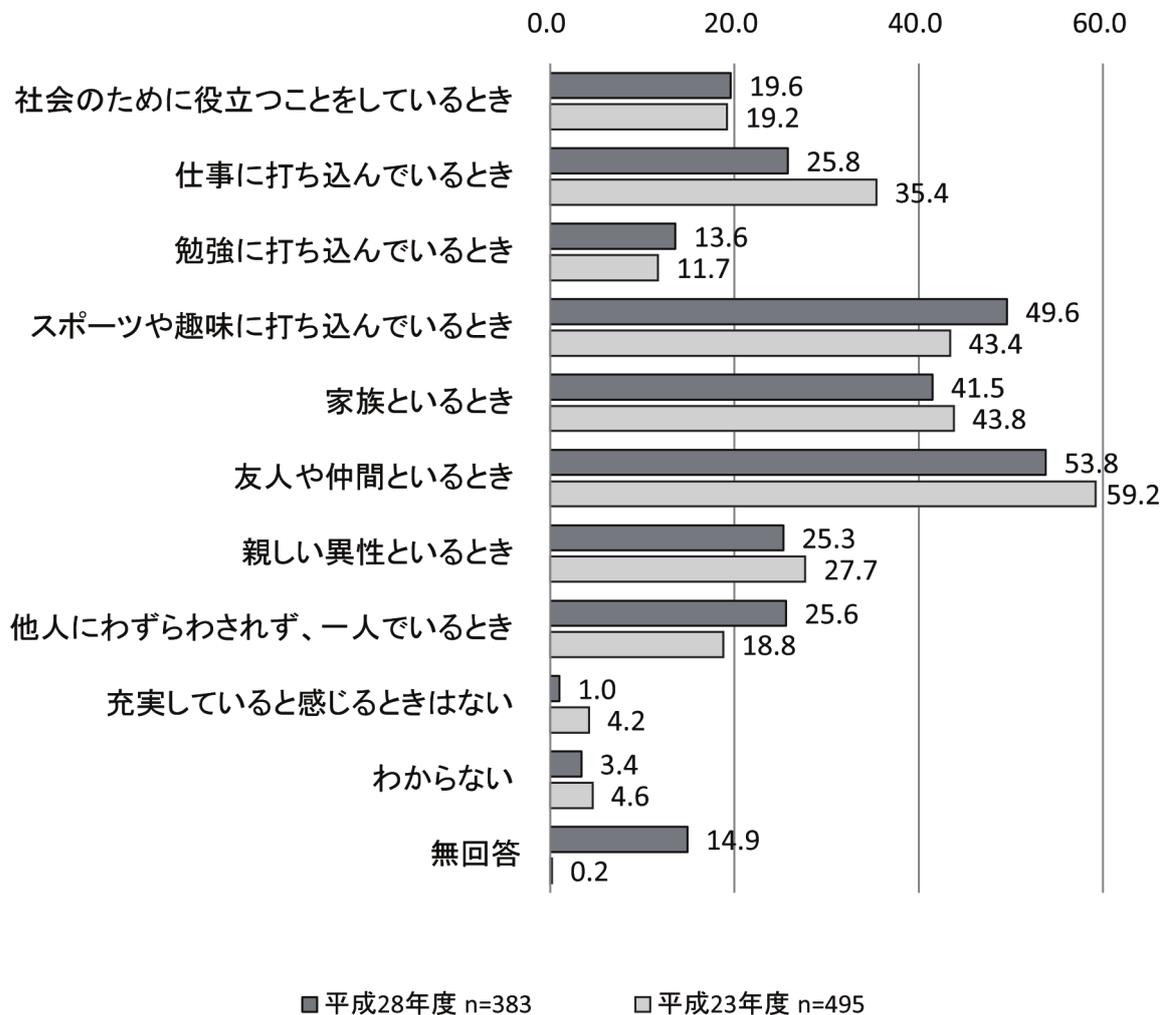
「友人や仲間といるとき」「スポーツや趣味に打ち込んでいるとき」「家族といるとき」の順に回答が多かった。

平成23年度と比べると、「スポーツや趣味に打ち込んでいるとき」「他人にわずらわされず、一人であるとき」が5%以上増加した。一方で、「仕事に打ち込んでいるとき」「友人や仲間といるとき」が5%以上減少した。

青年が充実していると感じるとき

図28

(%)

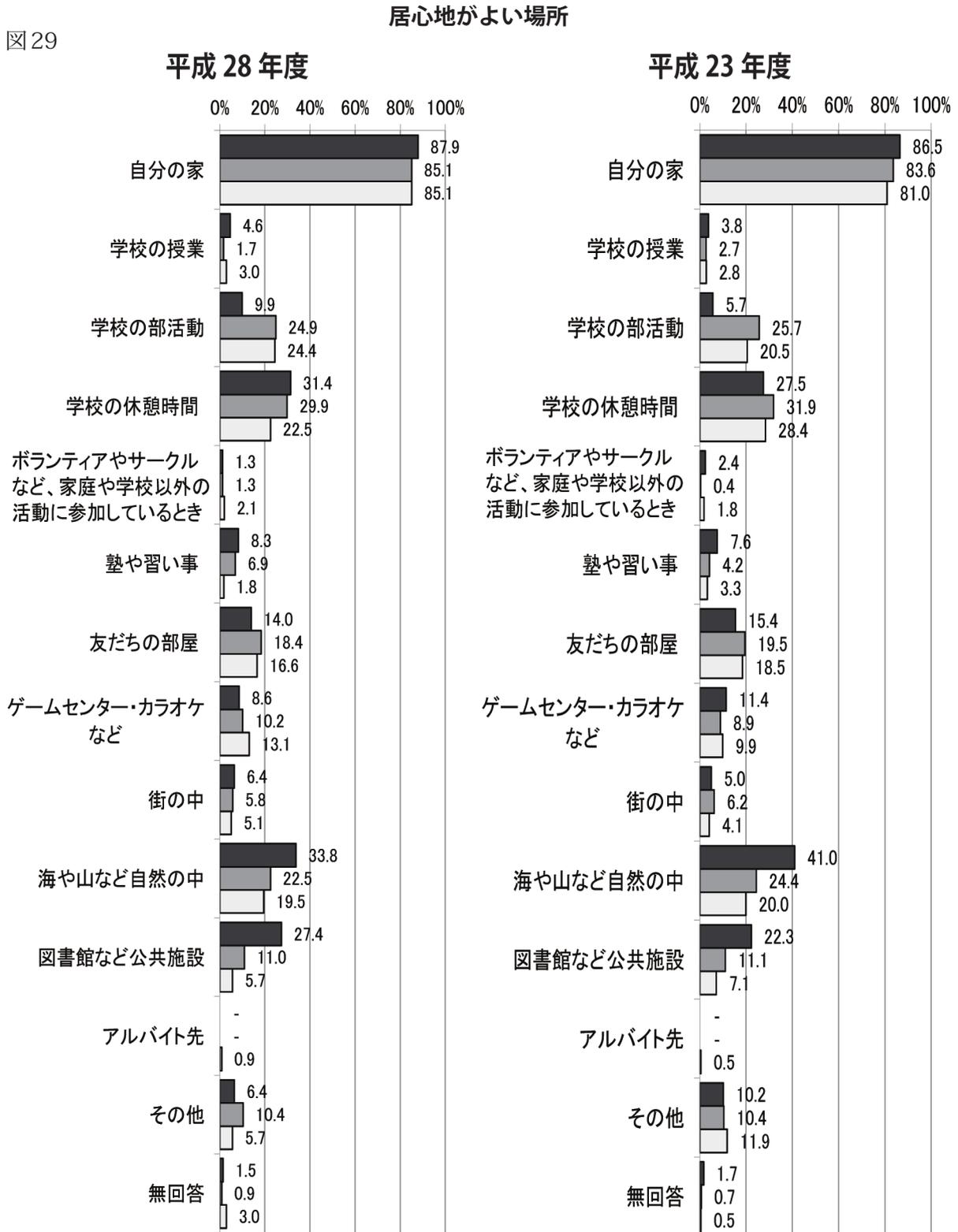


▶▶ オ 居心地がよい場所

問 あなたが居心地がいいと思う「ところ」・「とき」はどれですか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

平成23年度と比較してどの年代でも増加している項目は、「自分の家」であった。逆にどの年代でも減少している項目は「海や山など自然の中」であった。

図29



■小学5年n=456 ■中学2年n=462 □高校2年n=435 ■小学5年n=422 ■中学2年n=451 □高校2年n=395

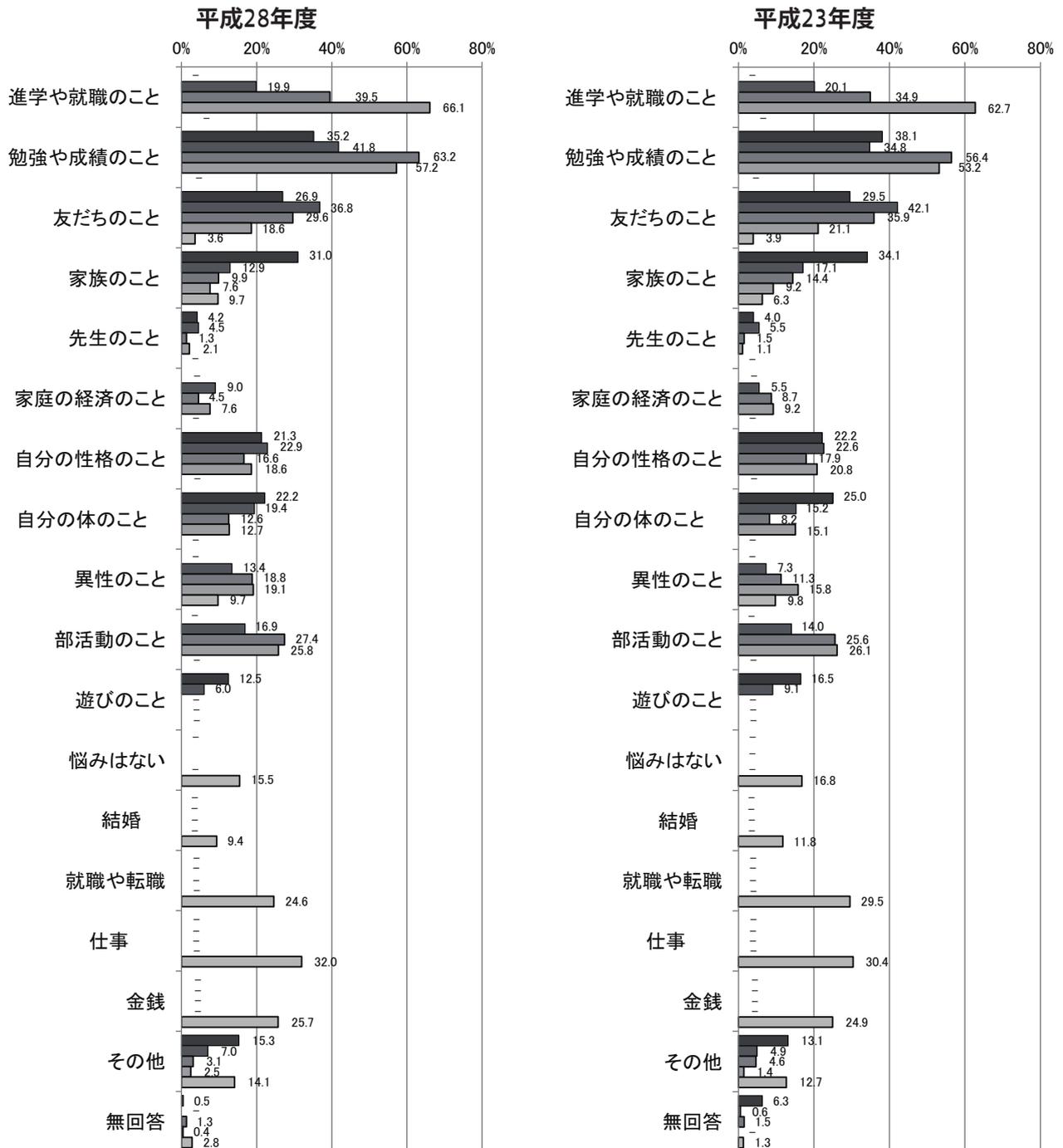
カ 悩みの内容

問 質問7（悩みの有無）で、「1 ある」を選んだ人に質問します。それはどんなことについてですか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

年代が上がるにつれ、「進学や就職のこと」や「勉強や成績のこと」をあげる割合が増加している一方、「友だちのこと」や「家族のこと」の割合が減少している。平成23年度と平成28年度の結果を比較して、大きな変化は見られない。

悩みの内容

図30



■小学2年 n=216 ■小学5年 n=201 ■中学2年 n=223 ■小学2年 n=176 ■小学5年 n=164 ■中学2年 n=195  
 □高校2年 n=236 □青 年 n=362 □高校2年 n=284 □青 年 n=457

キ 悩みの相談相手

問 あなたは、悩みや心配なことを、だれに相談していますか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

年代別に一番回答が多かった項目を見ていくと、小学2年、小学5年、青年では「母」であり、中学2年、高校2年では「友だち」である。

悩みの相談相手

表2

(単位:%)

選択肢	父	母	兄弟、姉妹	祖父、祖母	おじ、おば	担任の先生 (小2:先生)	保健室の先生	その他の先生 (教育相談、部活動などの先生)	先輩	友だち
小学2年 n=445	39.1	71.9	21.1	12.8	3.1	21.3	-	-	-	25.6
小学5年 n=464	23.9	59.3	11.9	10.1	1.3	12.5	1.3	0.4	2.2	28.7
中学2年 n=465	13.3	43.4	9.0	3.9	2.4	6.0	1.7	3.2	9.2	54.4
高校2年 n=438	12.1	39.0	9.1	1.8	0.5	3.4	3.0	1.8	11.9	59.6
青年 n=362	8.6	46.4	14.6	1.9	0.6	4.1	-	-	3.0	45.6

区分	医師・看護師など医療関係者	役所の相談機関	その他の相談機関	電話相談	相談相手がいない	誰かに相談しようとは思わない	恋人・配偶者	職場の上司	職場の同僚	その他	無回答
小学2年 n=445	-	-	-	-	-	8.5	-	-	-	8.5	1.8
小学5年 n=464	0.2	-	-	0.0	4.5	13.6	-	-	-	5.0	6.9
中学2年 n=465	0.0	0.0	0	0.6	4.3	23.2	-	-	-	3.7	1.9
高校2年 n=438	0.2	0.0	0.0	0.2	5.9	22.1	-	-	-	2.3	3.0
青年 n=362	2.5	1.1	-	-	3.3	12.2	26.0	6.9	14.9	0.3	2.8

ク 子どもについての保護者の悩み

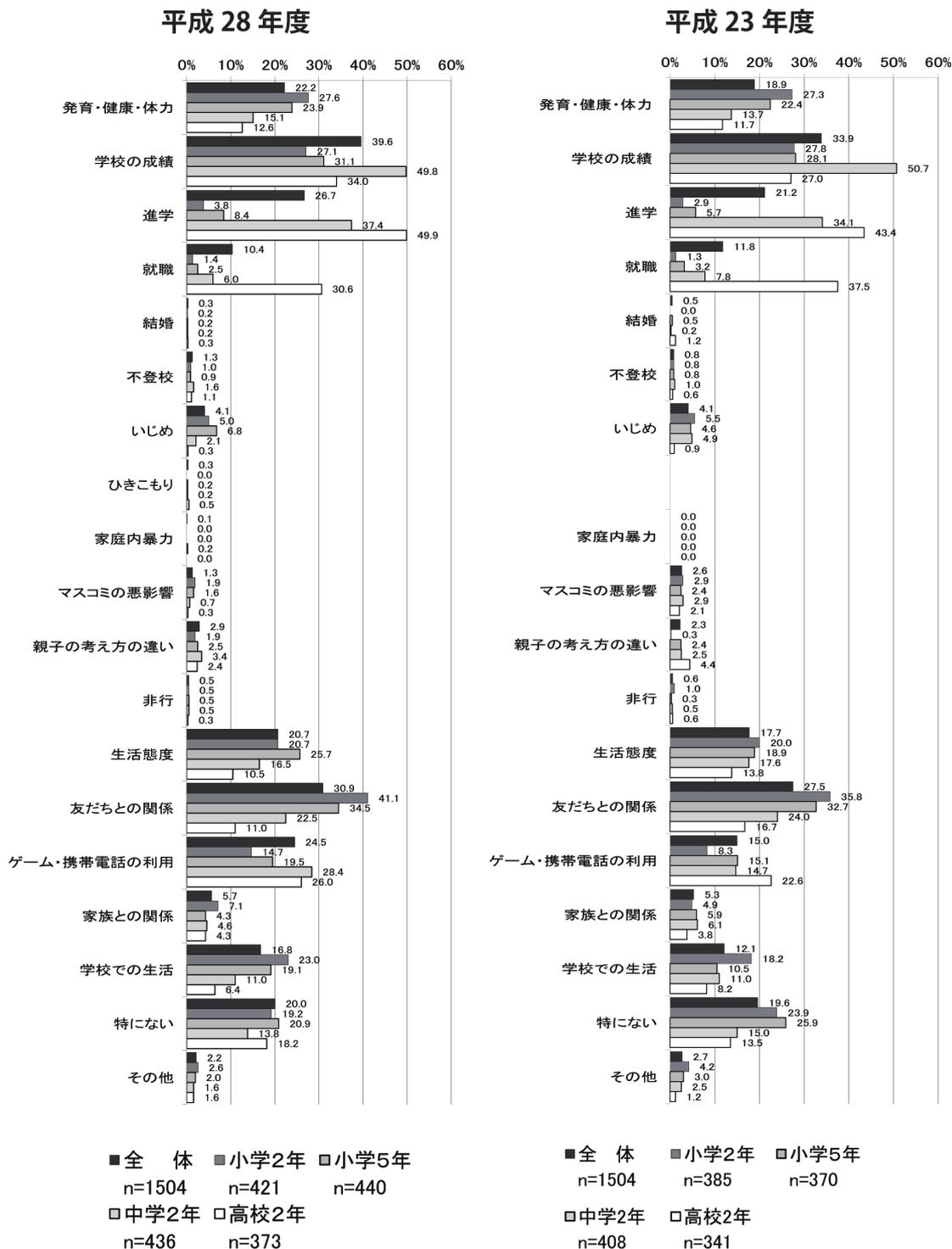
問 あなたは、お子さんについて、悩みや不安はありますか。次の中からあてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

「学校の成績」はどの年代でも悩みにあげられている。小学校では「友だちとの関係」が多いが、中学校・高等学校になると「進学」「就職」が多い。

平成23年度と比較して、どの年代でも増加しているのは「発育・健康・体力」「進学」「ゲーム・携帯電話の利用」であった。

子どもについての保護者の悩み

図31



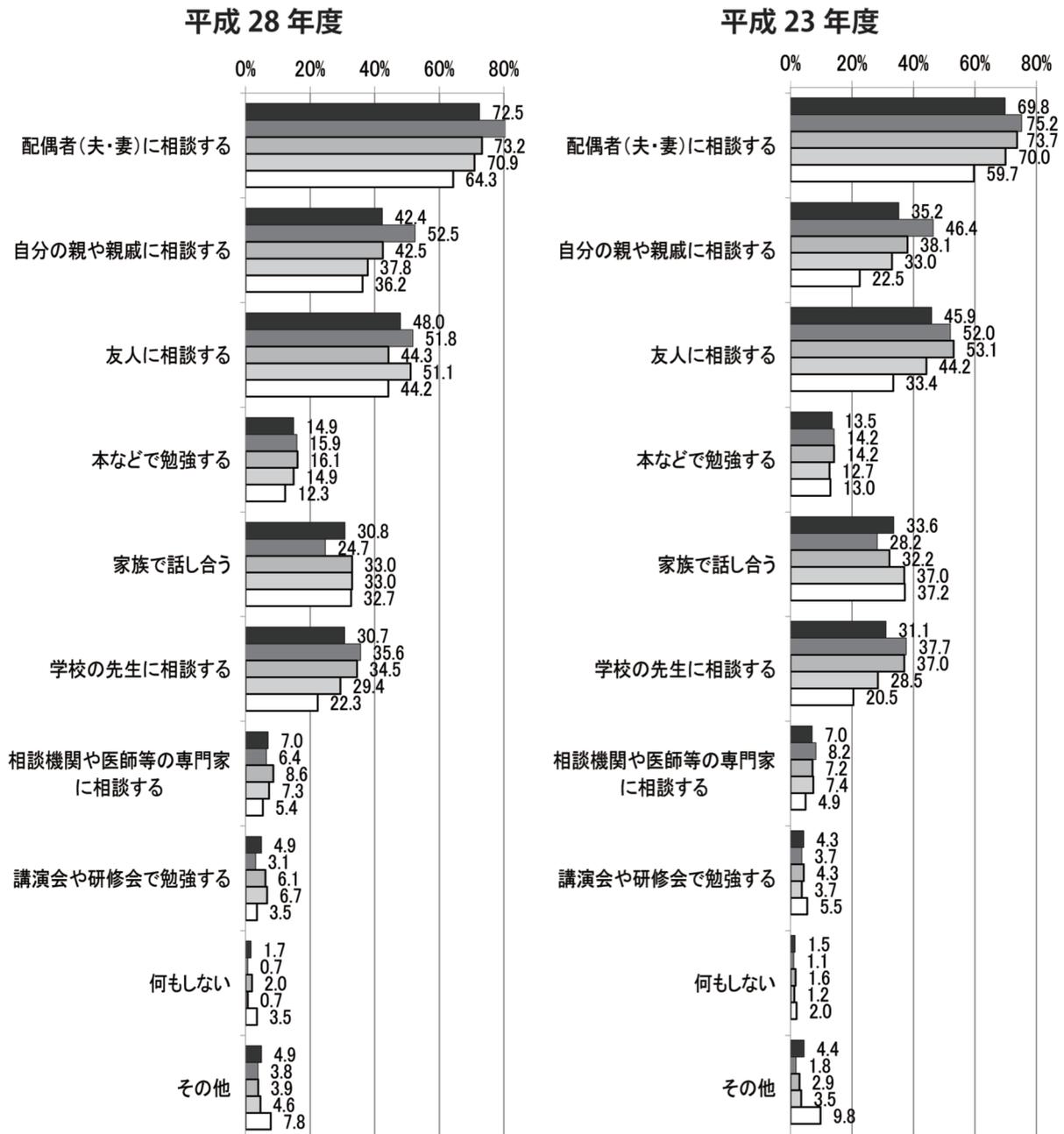
ケ 保護者の悩みの対応法

問 お子さんに対する悩みがあるときはどのようにしていますか。次の中からあてはまる番号をいくつでも選んで○をつけてください。

「配偶者に相談する」が7割程度、「自分の親や親戚」、「友人」、「学校の先生」に相談するがそれぞれ3～5割程度であった。

保護者の悩みの対応法

図32



■全体 n=1670 ■小学2年 n=421 □小学5年 n=440

□中学2年 n=436 □高校2年 n=373

■全体 n=1502 ■小学2年 n=379 □小学5年 n=373

□中学2年 n=403 □高校2年 n=347

## (6) 進路・職業観

### ア 希望する最終学歴

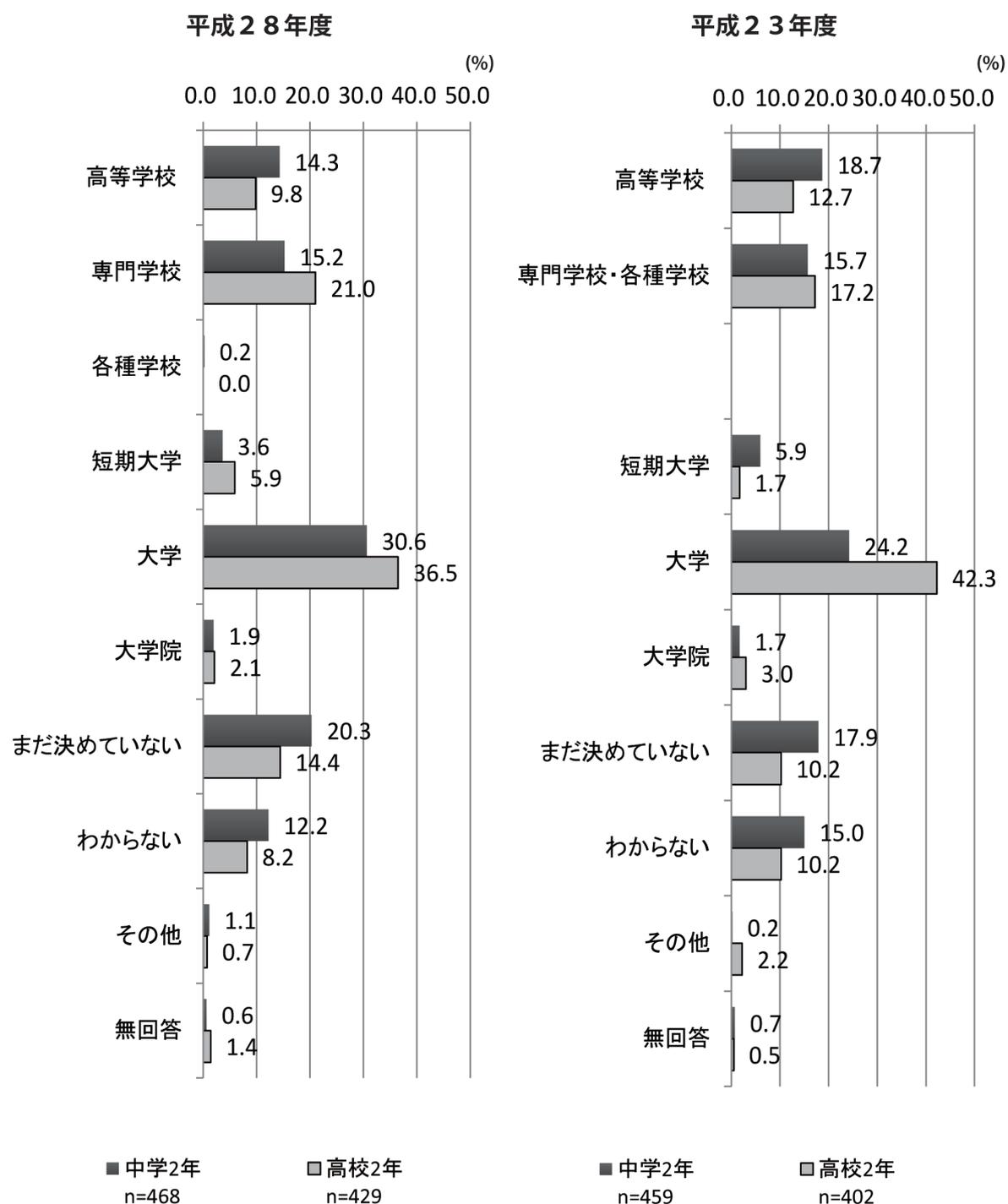
問 あなたの進学最終目標はどこまでですか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

どの年代でも、「大学」の回答が多く、3～4割を占めた。次に「専門学校」「高等学校」と続いている。

平成23年度と比べて中学2年と高校2年のどちらの年代でも減少しているのは「高等学校」で、増加しているのは「まだ決めていない」だった。「大学」の回答は中学2年で増加し、高校2年で減少している。

#### 希望する最終学歴

図33



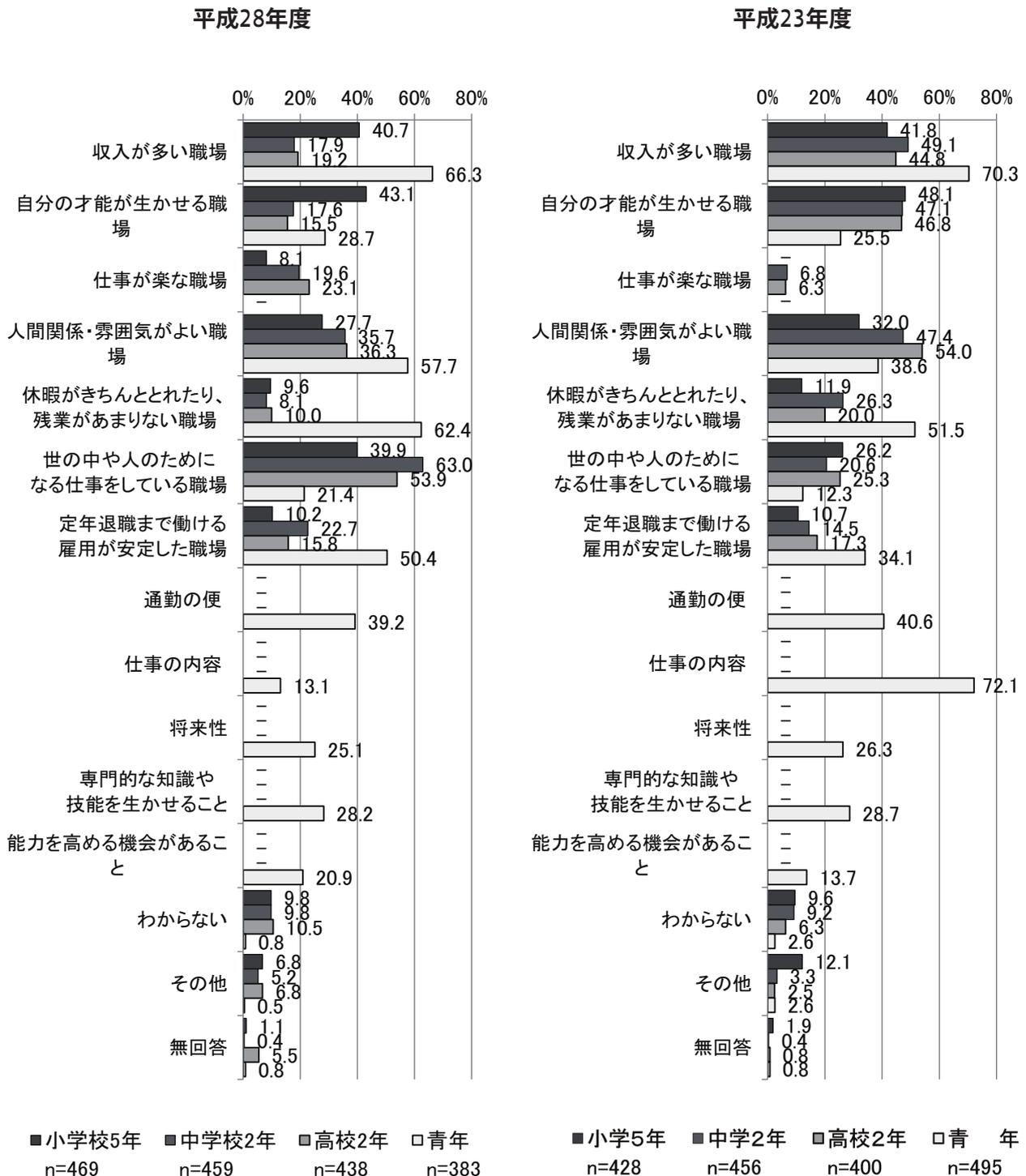
イ 職業選択の規準

問 あなたは、将来どのような職場で働きたいと思いますか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

平成23年度と比べて、全ての年代で大幅に増加しているのは「世の中や人のためになる仕事をしている職場」である。小学5年、中学2年では「収入が多い職場」が大きく減少している。青年で増加幅が大きいのは、「人間関係・雰囲気の良い職場」「休暇がきちんととれたり、残業があまりない職場」「定年退職まで働ける雇用が安定した職場」であり、減少幅が大きいのは「仕事の内容」であった。

職業選択の規準

図34



▶▶ ウ 青年の働くことについての考え方

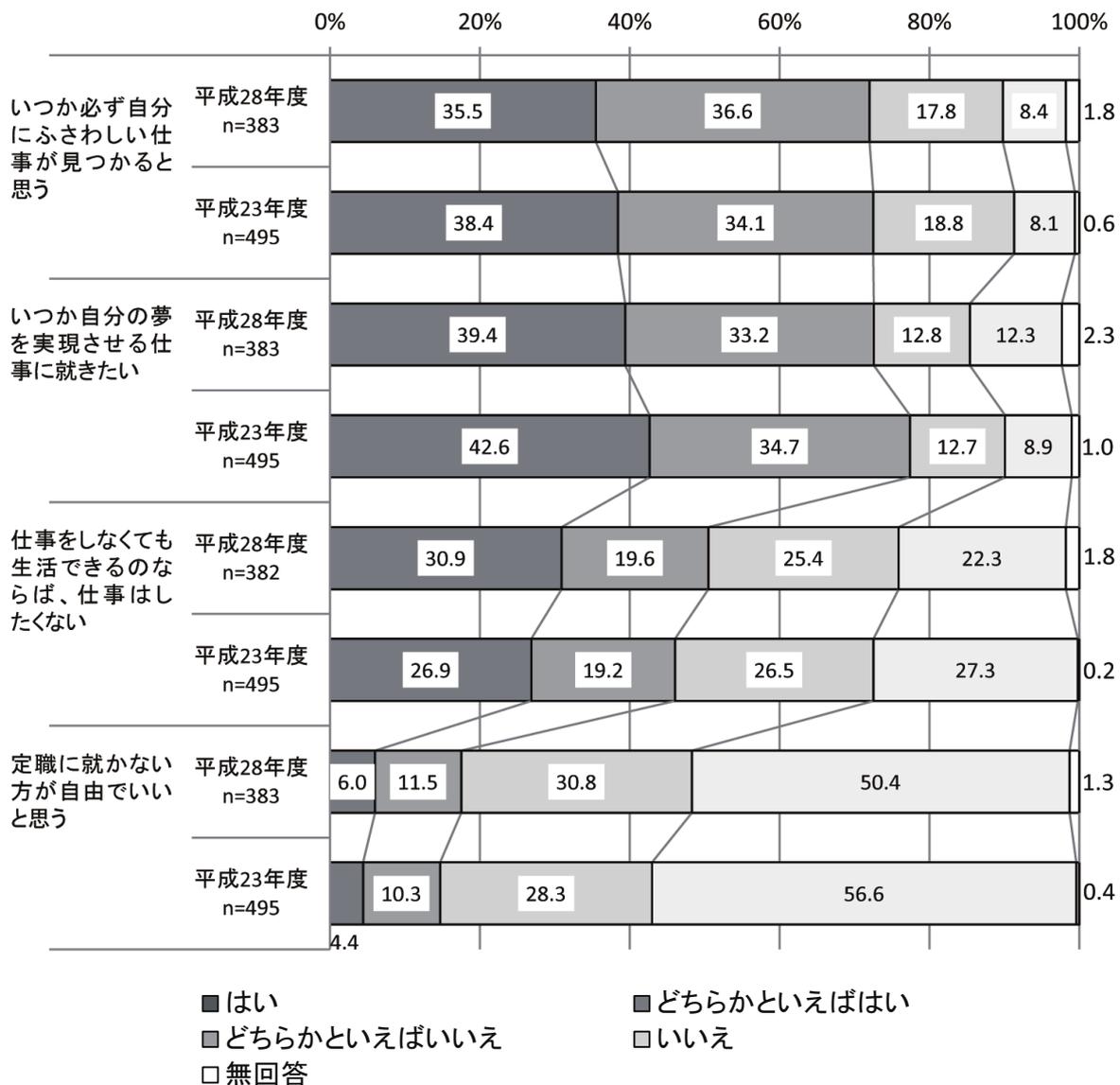
問 次の項目について、あなた自身にあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。  
(○は各項目につきひとつ)

項目別に見ていくと、「はい」と「どちらかといえばはい」を合わせると一番多い項目は、「いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい」で約73%である。二番目に多い項目は「いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う」で約72%である。反対に「はい」と「どちらかといえばはい」を合わせて一番少なかった項目は、「定職に就かない方が自由でいいと思う」(約18%)である。

平成23年度と比べ、「いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい」「いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う」に「はい」「どちらかといえばはい」とした割合は減少した一方、「仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない」「定職に就かない方が自由でいいと思う」に「はい」「どちらかといえばはい」とした割合は増加している。

青年の働くことについての考え方

図35



## (7) 非行傾向による比較

### ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

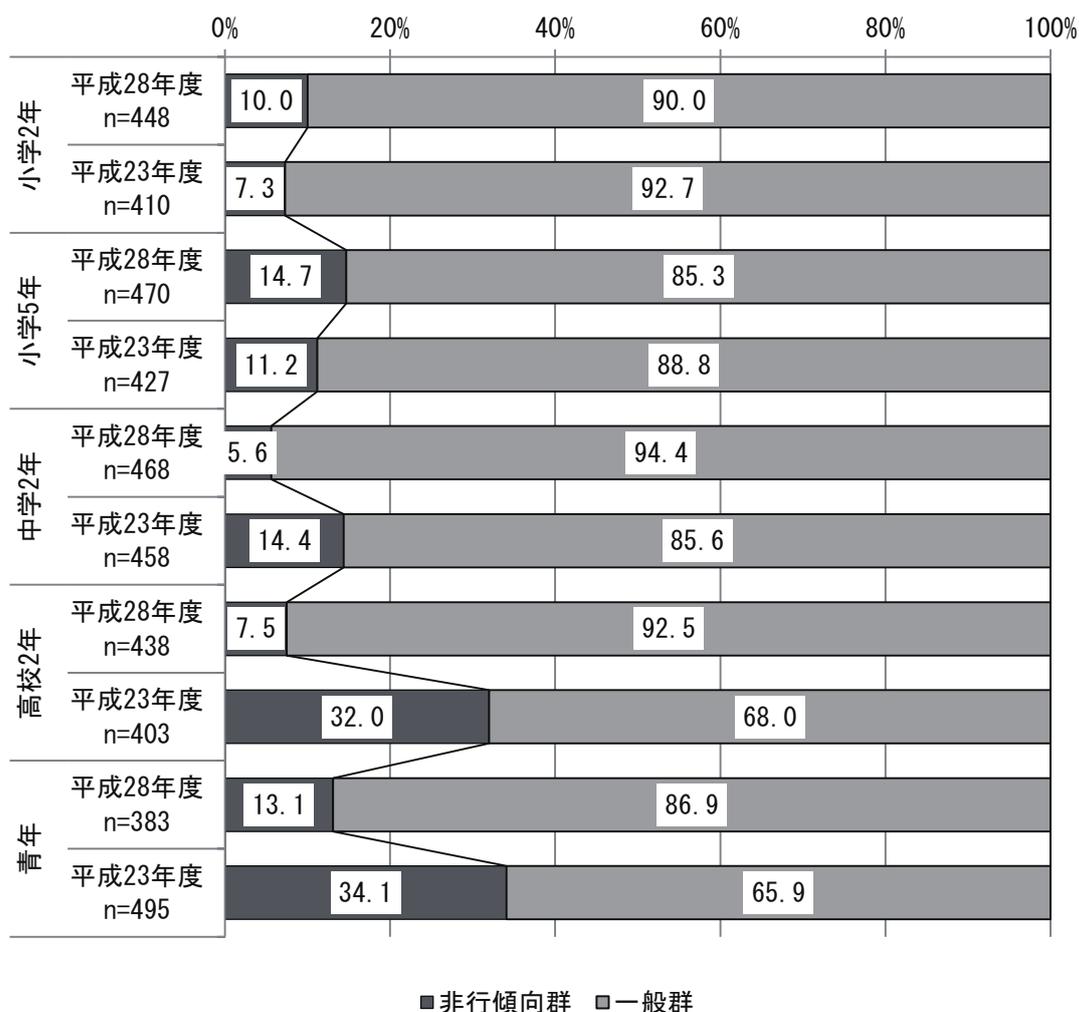
非行傾向群 = 以下の行為の最近1年間ぐらいの経験について、3つ以上「1～2度ある」「ときどきある」を選んだ者。(青年では高校生までに「よくあった」「ときどきあった」)

- ・ 友だちとゲームセンターで遊んだことがある
- ・ 友だちをいじめたことがある
- ・ 親のお金をだまって持ち出したことがある
- ・ 親にひどく反抗したことがある
- ・ 友だちと夜遅くまで遊んだことがある
- ・ 出会い系サイトを使ったことがある
- ・ インターネット上の掲示板等で他人の悪口等の書き込みをしたことがある

一般群 = 上記以外の者。

非行傾向群と一般群の割合 (%)

図36



非行傾向群と一般群の割合は、各年代の1割未満から1.5割程度であった。

平成23年度と比較すると、小学2年と小学5年では非行傾向群が僅かに増加している一方で、中学2年では非行傾向群の割合が約9%、高校2年では約25%、青年では21%と大きく減少している。

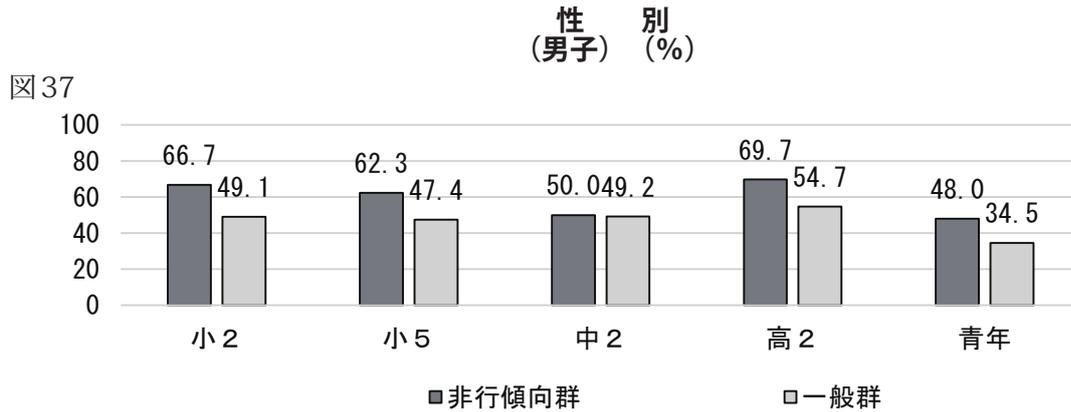
### ▶▶ イ 非行傾向群と一般群の比較方法

非行傾向群と一般群別に全質問項目を集計し、回答率に10%以上の差があった項目を抽出した。非行傾向群と一般群で2つ以上の年代に共通して差があった項目のうち、主な項目は次のとおり。

なお、非行傾向群と一般群別の集計は、有効回答者数（n）から無回答を除いて行った。

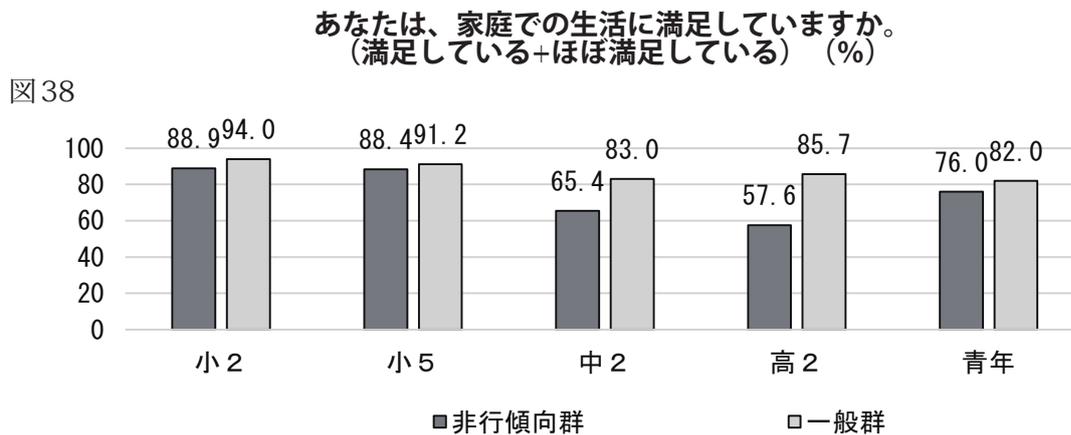
### ▶▶ ウ 属性

- 性別をみるといずれの年代でも非行傾向群の方が男子の割合が高く、中学2年以外では非行傾向群と一般群の差は10%以上あった。



### ▶▶ エ 家族・家庭

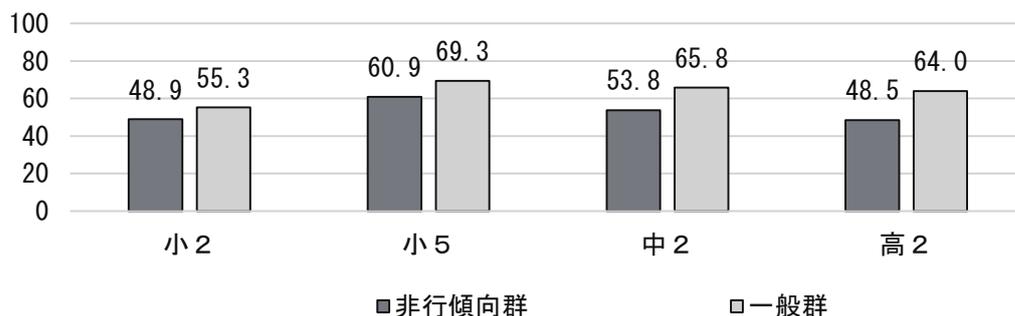
- 非行傾向群では、家庭生活の満足度について「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合が一般群に比べ総じて低かった。特に非行傾向群と一般群の差が大きかったのは中学2年の約18%、高校2年の約28%であった。



- 非行傾向群では、大人の家族と一緒に夕食を食べる頻度について「ほとんど毎日一緒に食べる」と回答した割合が一般群に比べ全ての年代において低かった。非行傾向群と一般群の差は小学2年で約6%、小学5年で約8%、中学2年約12%、高校2年では約16%と、年代があがるにつれ差が大きくなる傾向があった。

あなたは、大人の家族（兄弟、姉妹以外の家族）と一緒に夕飯を食べますか。  
（ほとんど毎日一緒に食べる）（%）

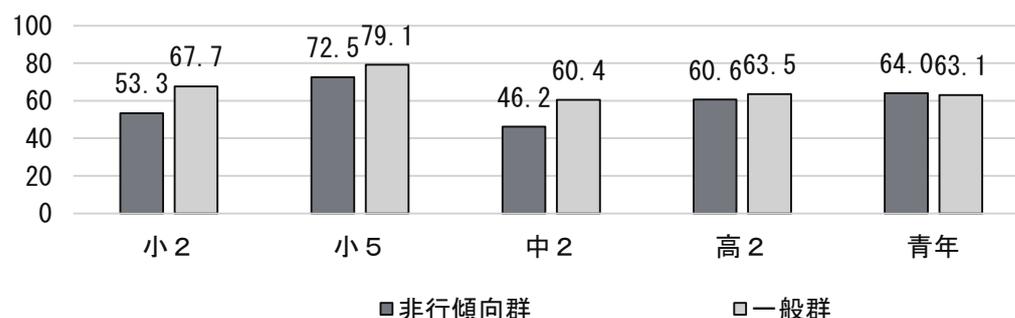
図39



○ 家庭での大人の家族との会話の頻度を尋ねる質問で、「よく話す」と回答した割合は、青年を除く年代で非行経験群の方が低かった。一般群との差が大きかったのは小学2年と中学2年で、約14%の差があった。

あなたは、大人の家族（兄弟、姉妹以外の家族）とどれぐらい話をしますか。  
（よく話す）（%）

図40



### オ 友人関係

○ 非行傾向群では、友だちになったきっかけを複数回答で選ぶ設問において「SNS (LINE、Twitter等)を通じて」友だちになった、と回答した割合が高かった。一般群でSNSを通じた友人関係がある割合は中学2年、高校2年度いずれも1割以下であったが、非行傾向群では、2割前後がSNSを通じた友人関係があると回答している。

どんなきっかけで友だちになりましたか。  
（SNS (LINE、Twitter等)を通じて）（%）

図41

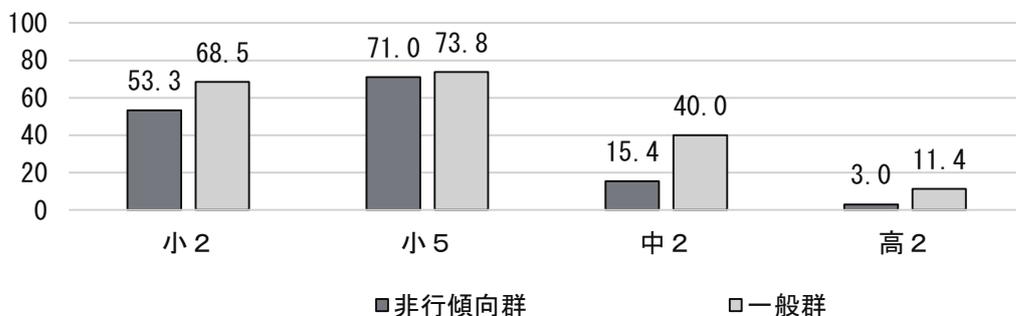


## ▶▶ カ 生活

- 学習習慣についての設問で、「家で勉強」を「よくしている」と回答した割合は、総じて非行傾向群のほうが低く、特に中学2年では非行傾向群と一般群で約25%の差があった。

家で勉強する  
(よくしている) (%)

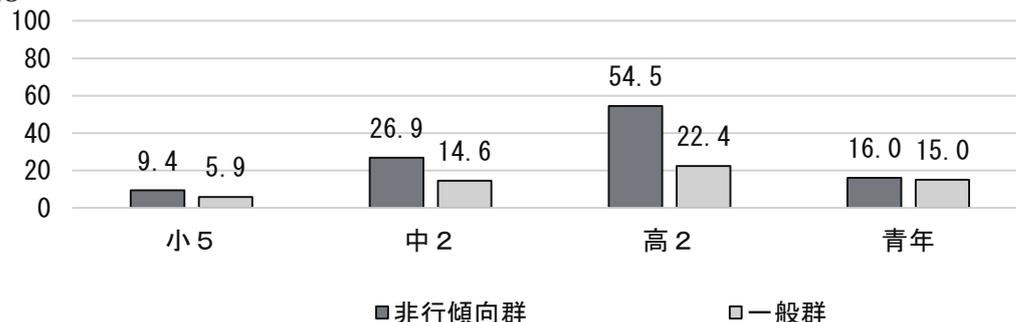
図42



- また、一日のインターネット利用時間について、「4時間以上」と回答した割合は非行傾向群のほうが高く、特に中学2年では非行傾向群と一般群の差が約12%、高校2年では約32%の差があった。

あなたは、一日平均どれくらいの時間インターネットを利用していますか。  
(4時間以上) (%)

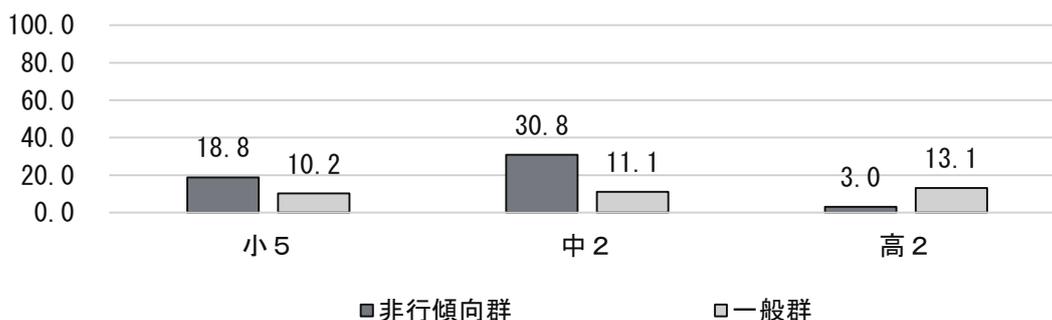
図43



- インターネット接続機器の使用状況について尋ねた質問で、小学5年と中学2年の非行傾向群では「スマートフォン」「タブレット」「携帯音楽プレーヤー」「据え置き型ゲーム機」を使ってインターネットを利用していると回答した割合が、一般群よりも高い傾向にあった。

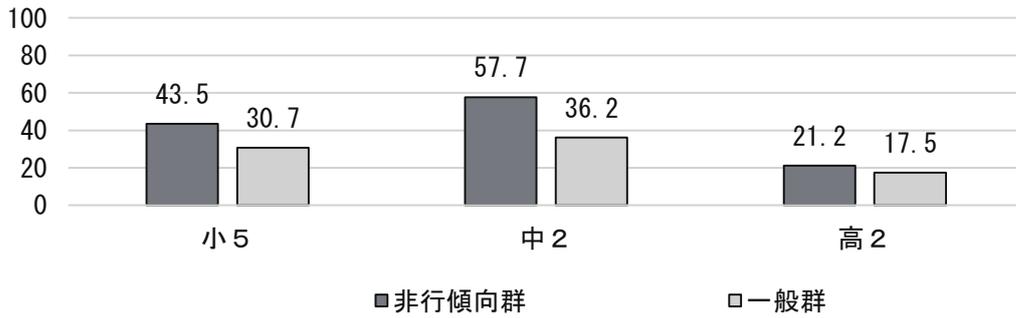
あなたは、以下の機器でインターネットを利用していますか。  
(スマートフォン) (%)

図44



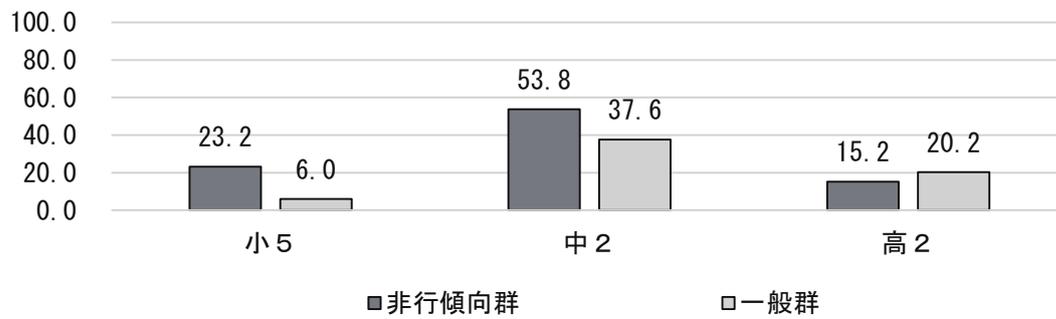
(タブレット (iPadなど) ) (%)

図45



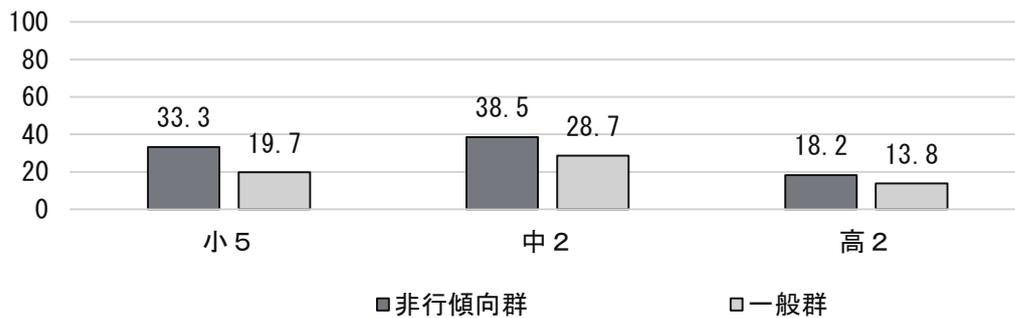
(携帯音楽プレーヤー (iPodやWALKMANなど) ) (%)

図46



(据え置き型ゲーム機 (ゲーム機WiiやXbox、Playstationなど) ) (%)

図47



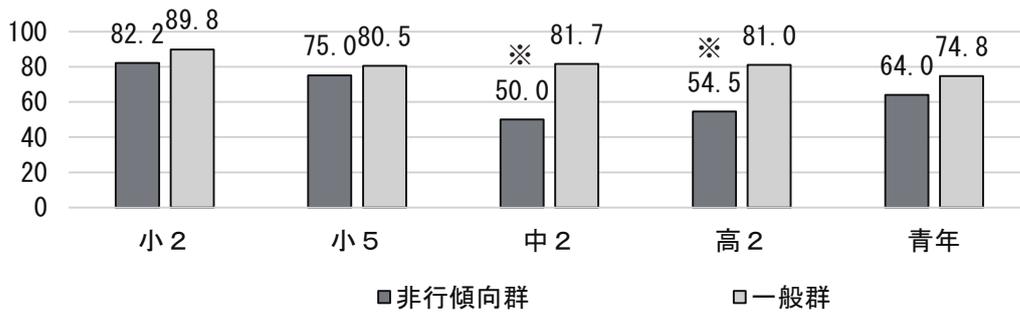
## キ 学校生活

- 学校生活の満足度について「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合は、いずれの年代でも非行傾向群の方が低かった。特に、中学2年と高校2年では非行傾向群と一般群の差が大きく、中学2年では約32%、高校2年では約27%の差があった。

※ 次のグラフ中で「※」があるものは、比率算出のもとになる人数が25人未満であることを示す。

あなたは、学校生活に満足していますか。  
(満足している+ほぼ満足している) (%)

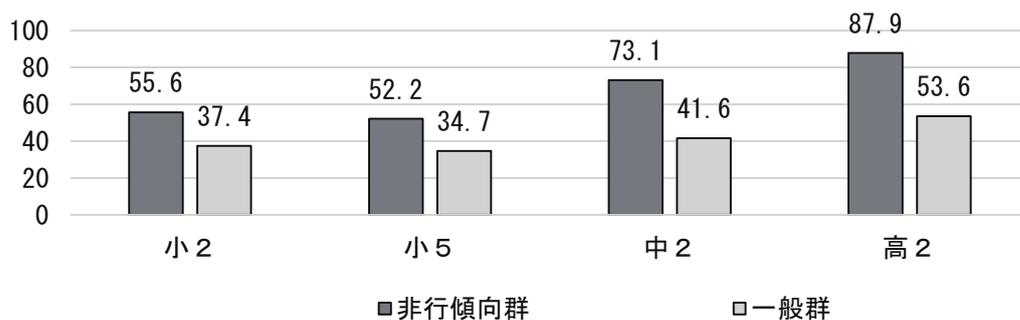
図48



- 登校前に「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思った経験が「ある（よくある、ときどきあるの合計）」と回答した割合は、いずれの年代でも非行傾向群のほうが高かった。非行傾向群と一般群の差は小学2年と小学5年で約18%、中学2年で約32%、高校2年で34%で、小学生よりも中学生・高校生の方が差が大きかった。

あなたは登校前に、「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思うことがありますか。  
(よくある+ときどきある) (%)

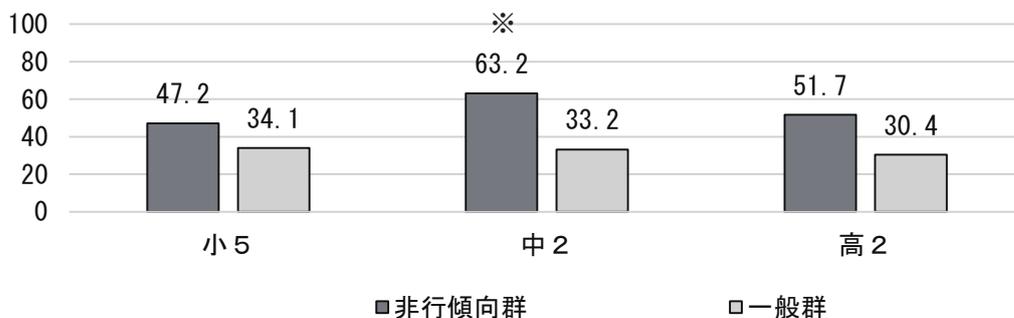
図49



- また、学校に行きたくない理由として「勉強がおもしろくない」と回答した割合は、非行傾向群のほうが一般群よりも高く、その差は小学5年で約13%、中学2年で約30%、高校2年で約21%であった。  
 ※ 次のグラフ中で「※」があるものは、比率算出のもとになる人数が25人未満であることを示す。

質問26で、「1よくある」、「2ときどきある」を選んだ人に質問します。学校に行きたくない理由は何ですか。  
 (勉強がおもしろくないから) (%)

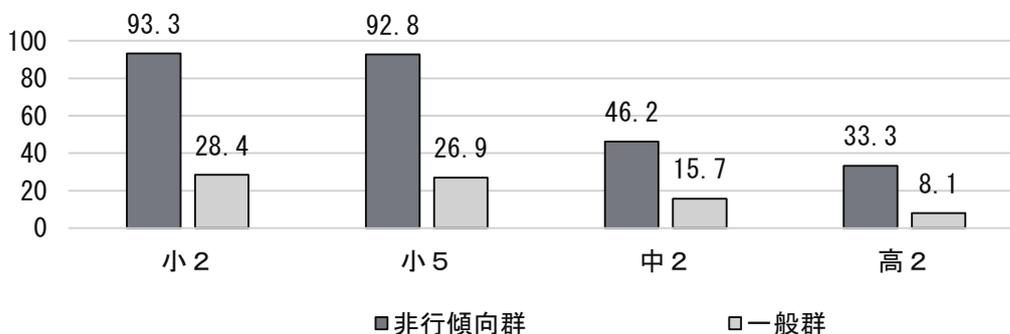
図50



- いじめについての設問では、いじめた経験のある割合、いじめられた経験のある割合どちらも非行傾向群の方が一般群よりも高かった。(ある = 「1～2度ある」「ときどきある」の合計)

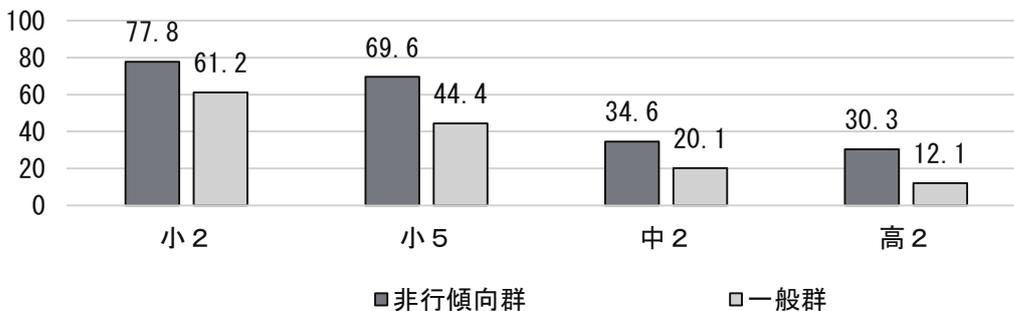
友だちをいじめたことがある  
 (ときどきある+1～2度ある) (%)

図51



いじめられたことがある  
 (ときどきある+1～2度ある) (%)

図52

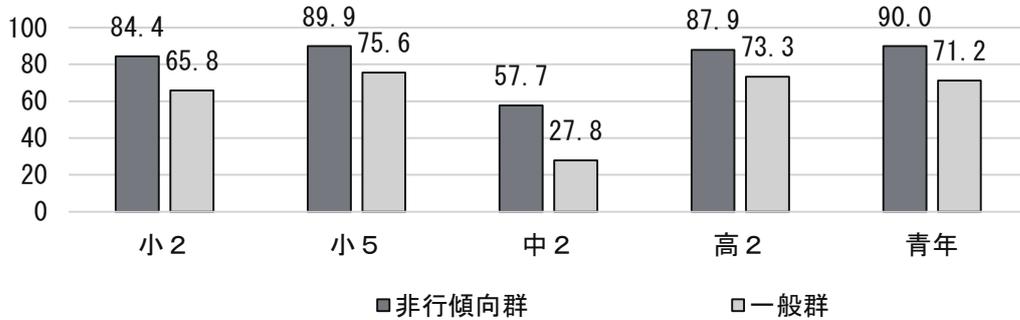


## ク 心の状態

- いろいろしたり、おこりっぽくなるのが「ある（よくある、ときどきあるの合計）」と回答した割合は、いずれの年代でも非行傾向群のほうが高かった。特に、中学2年では非行傾向群と一般傾向群の差が約30%あった。

あなたは、いろいろしたり、おこりっぽくなったりすることがありますか。  
(よくある+ときどきある) (%)

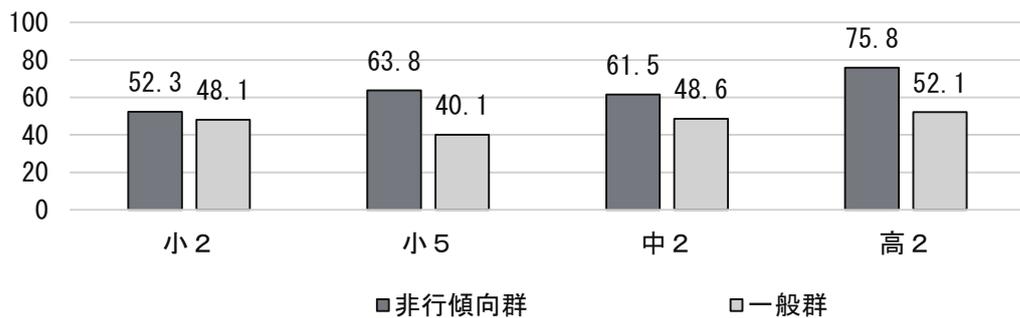
図53



- 悩みや心配なことが「ある」と回答した割合はいずれの年代でも非行傾向群のほうが高く、特に小学5年と高校2年では一般群と20%以上の差があった。

あなたは、悩みや心配なことがありますか。  
(ある) (%)

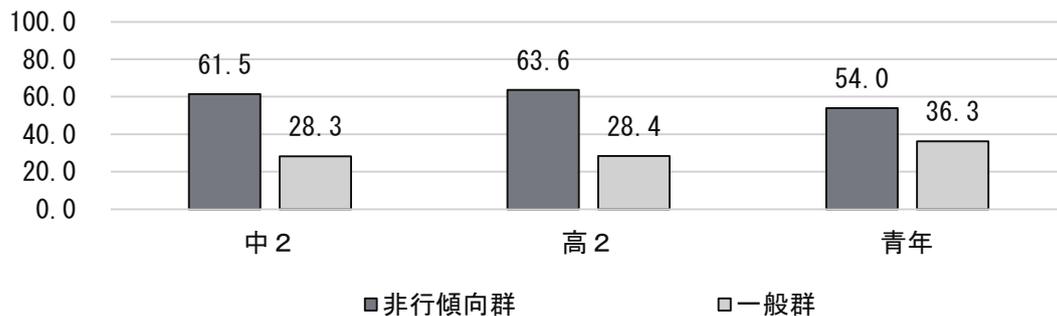
図54



- また、死にたいとおもったことが「ある（「1～2度ある」「ときどきある」の合計）」と回答した割合はいずれの年代でも非行傾向群のほうが高かった。非行傾向群と一般群の差は中学2年で約33%、高校2年で約35%、青年で約18%であった。

死にたいと思ったことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)

図55

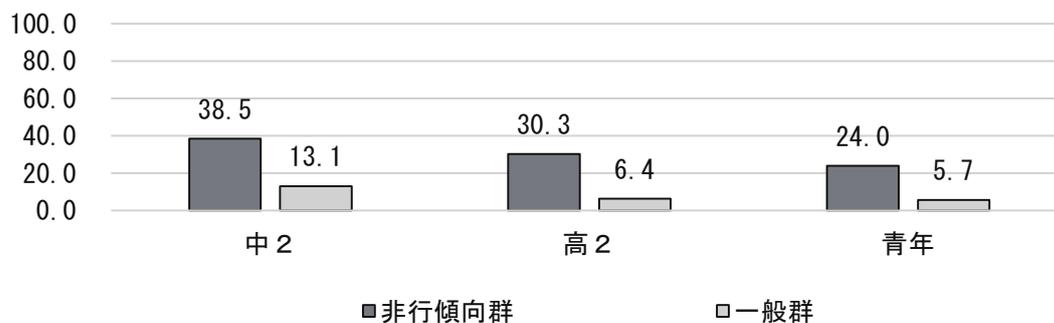


## ケ 非行

- 最近1年くらいの触法行為の経験（青年は高校卒業までの経験）について尋ねた設問のうち「けんかをして、人をなぐった」「店の品物をお金を払わずに持って出た」の2つの項目で、非行傾向群の方が「ある」と回答した割合が高かった。

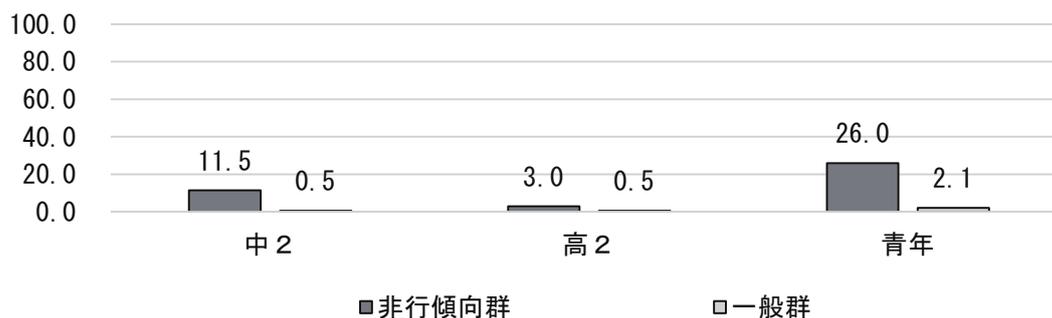
けんかをして、人をなぐった（ある）（%）  
※青年はよくあった+ときどきあった

図56



店の品物をお金を払わずに持って出た（ある）（%）  
※青年はよくあった+ときどきあった

図57



## (8) 一日のインターネット利用時間（長さ）による比較

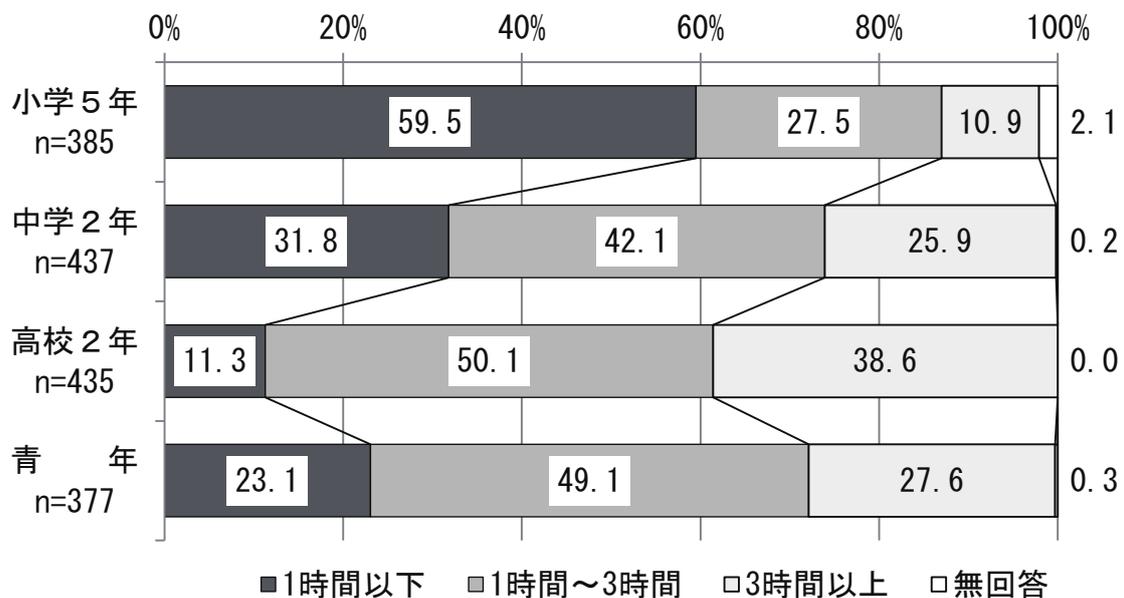
### ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

インターネットの利用時間の長さを尋ねる質問への回答により、回答者を下記の3つの群に分けて、クロス集計を行った。

- ・1時間以下群
- ・1時間～3時間群
- ・3時間以上群

一日のインターネット利用時間（長さ）各群の割合（%）

図58



年代別に割合の高い群をみると、小学5年では1時間以下の群（約6割）であった。それ以外の年代では、1時間～3時間の群の割合が高く、中学2年の約4割、高校2年と青年の約5割を占めた。3時間以上の群は、中学2年と青年の2.5割以上、高校2年の4割近くを占めた。

### イ 一日のインターネット利用時間（長さ）各群の比較方法

各群別に全質問項目を集計し、主な項目を抽出した。

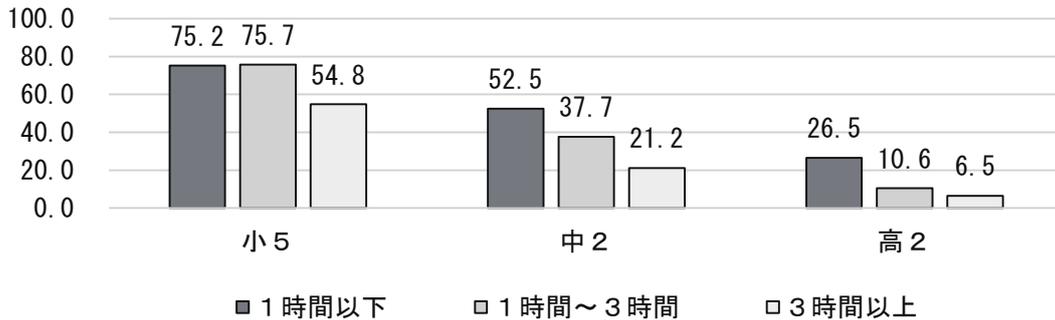
（なお、各群別の集計は、有効回答者数（n）から無回答を除いて行った。）

### ウ 生活

○ 学習習慣についての設問で、「家で勉強」を「よくしている」と回答した割合は、一日のインターネット利用時間が長い群の方が概ね低かった。中学2年では一日のインターネット利用時間が1時間以下の群では約53%が「良くしている」と答えたが、3時間以上の群では「よくしている」21%となり、その差は30%以上であった。高校2年でも、1時間以下の群と3時間以上の群では20%の差があった。

家で勉強する  
(よくしている) (%)

図59

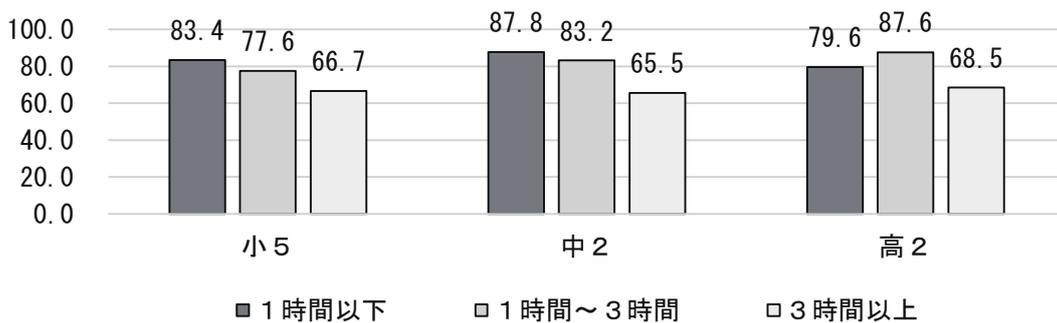


学校生活

- 学校生活の満足度について「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合は、一日のインターネット利用時間が長い群の方が概ね少ない傾向にあった。

あなたは、学校生活に満足していますか。  
(満足している+ほぼ満足している) (%)

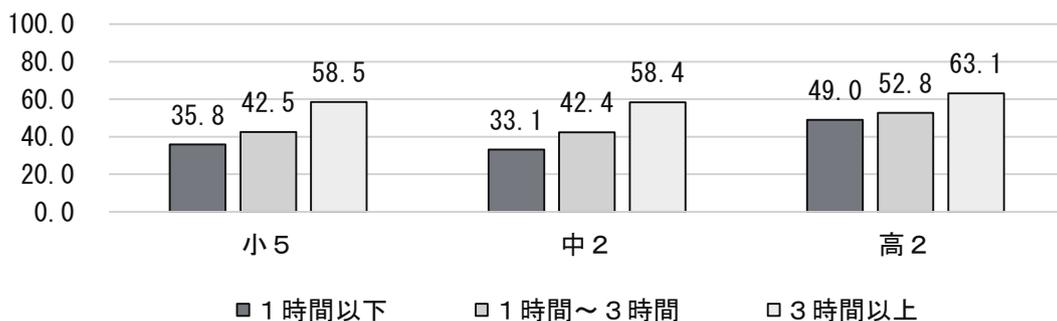
図60



- 登校前に「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思った経験が「ある（よくある、ときどきあるの合計）」と回答した割合は、一日のインターネット利用時間が長くなるに従い増加する傾向にあった。

あなたは登校前に、「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思うことがありますか。  
(よくある+ときどきある) (%)

図61

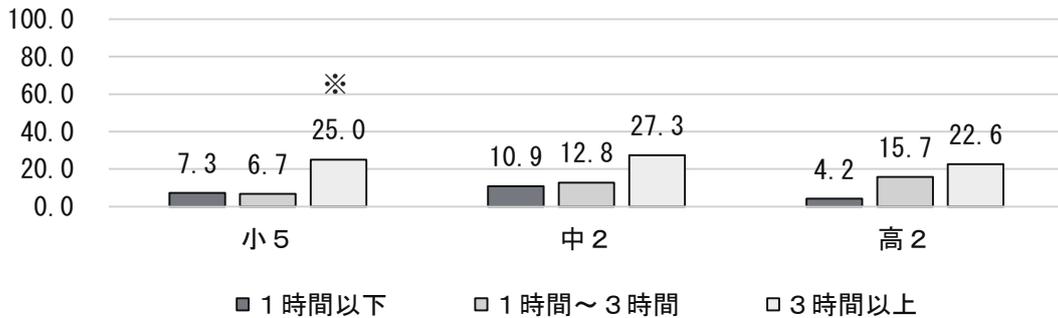


○ また、一日のインターネット利用時間が長い群の方が、学校に行きたくない理由として「夜更かしをしたから」と回答する割合が多かった。

※ 次のグラフ中で「※」があるものは、比率算出のもとになる人数が25人未満であることを示す。

質問26で、「1よくある」、「2ときどきある」を選んだ人に質問します。学校に行きたくない理由は何ですか。  
(夜更かしをしたから) (%)

図62

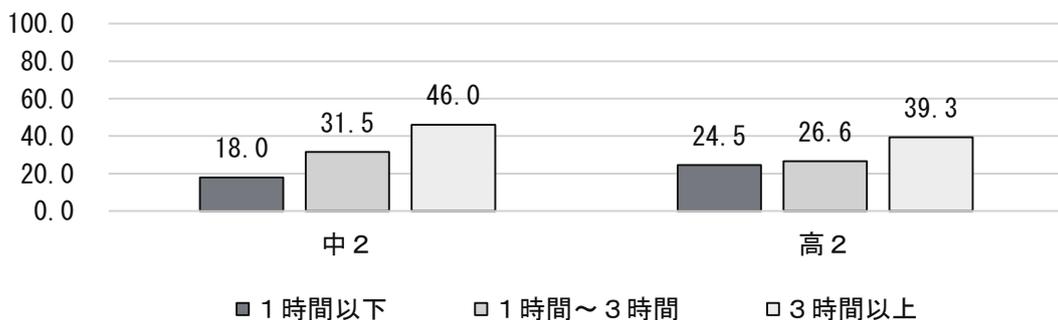


### ▶▶▶ オ 心の状態

○ 「死にたいとおもったこと」が「ある(1～2度ある)」「ときどきある」の合計」と回答した割合はインターネット利用時間が長くなるに従って増える傾向にあった。

死にたいと思ったことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)

図63

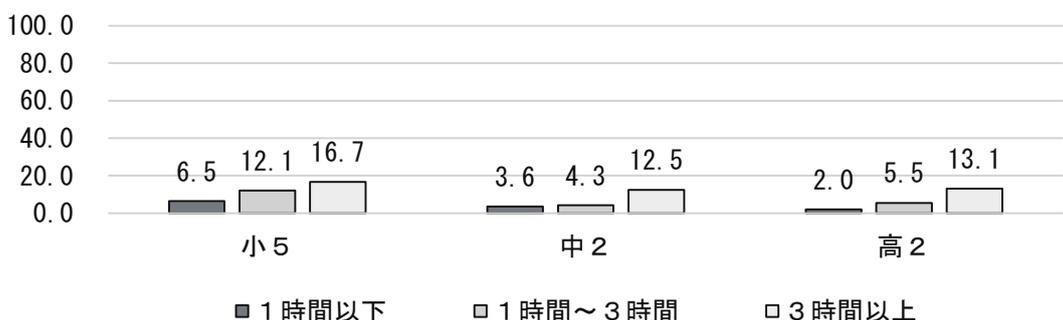


### ▶▶▶ カ 非行・被害

○ 非行に該当する行為について、最近1年ぐらいの間に経験が「ある(1～2度ある、ときどきあるの合計)」と回答した割合は、一日のインターネット利用時間が長くなるに従って増える傾向にあった(下記グラフ参照)。

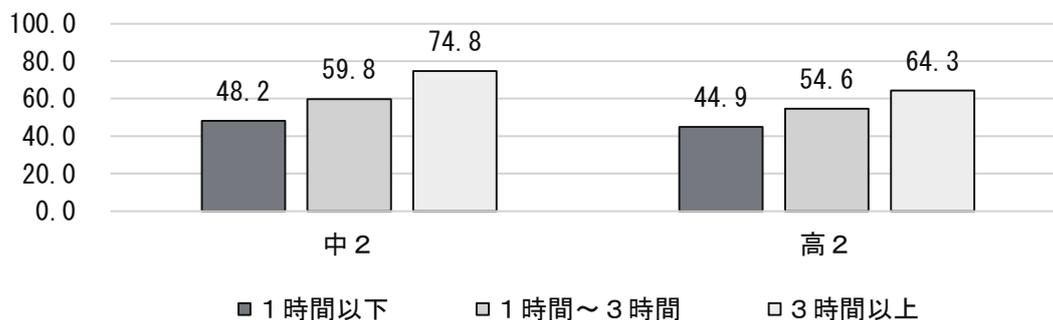
家のお金を、だまって持ち出したことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)

図64



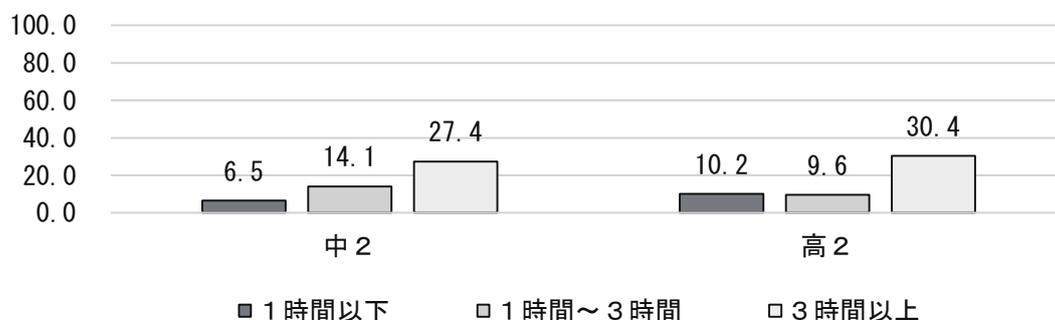
家の人にひどく反抗したことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

図65



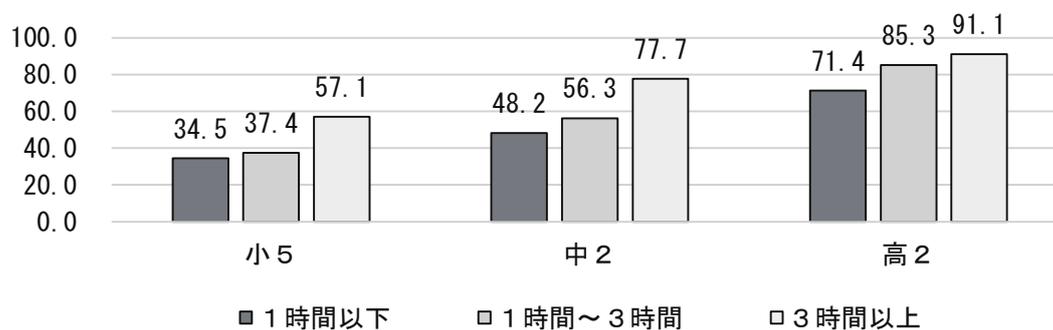
学校の授業をさぼったことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

図66



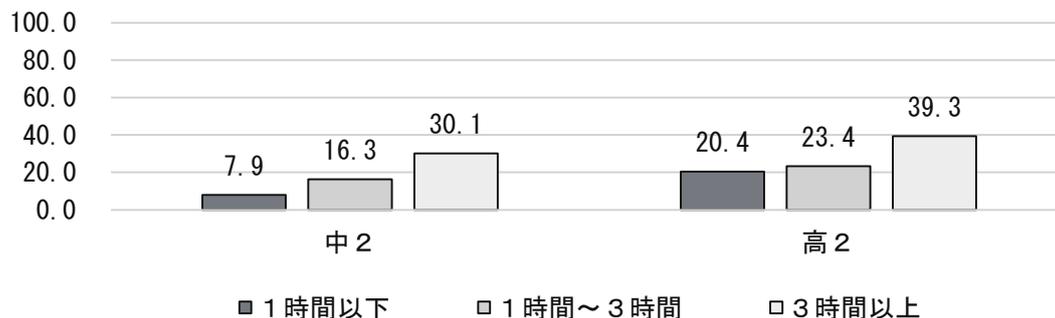
友だちとゲームセンターに行ったことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

図67



友だちと深夜まで遊んでいたことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

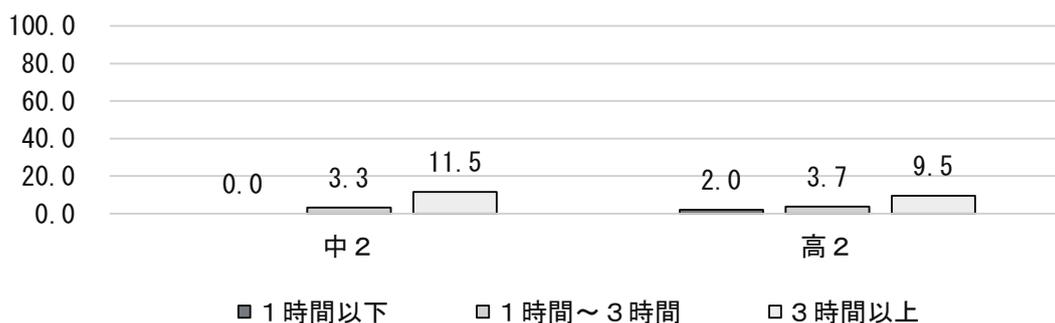
図68



- また、インターネット上の掲示板などでの経験に関する質問では、インターネット利用時間が長くなるに従って他人の悪口を書き込んだ経験、書き込まれた経験共に増える傾向にあった。

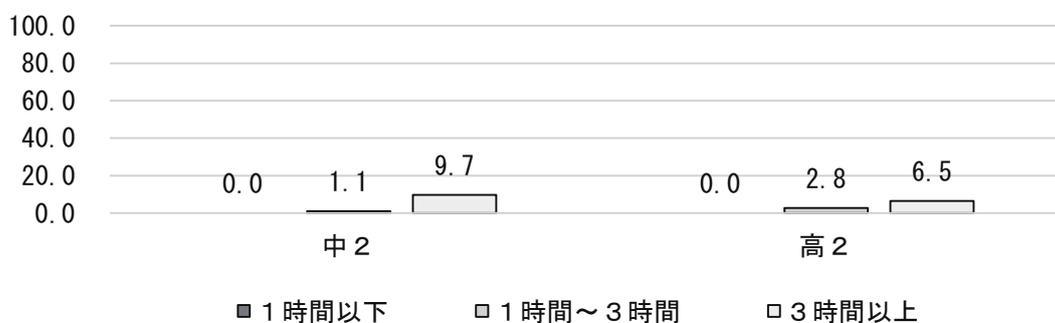
インターネット上の掲示板などに他人の悪口などの書き込みをしたことがある  
(ときどきある+1~2度ある) (%)

図69



インターネット上の掲示板などで自分の悪口などの書き込みをされた(ある) (%)

図70



## (9) ボランティアへの参加経験の有無による比較

### ▶▶ ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

ボランティアへの参加経験がある群 = 最近1年以内のボランティア活動への参加回数についての質問で、「1～2回」「3～5回」「6～9回」「10回以上」と回答した者。以下「ボランティア参加群」という。

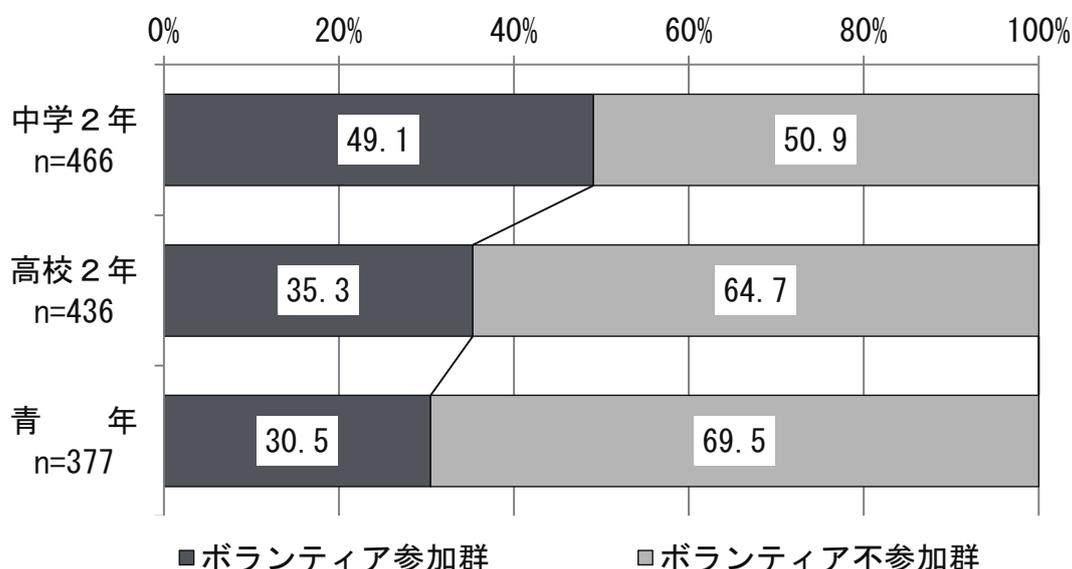
ボランティアへの参加経験がない群 = 上記以外の者。以下「ボランティア不参加群」という。

#### ボランティア参加群とボランティア不参加群の割合 (%)

ボランティア参加群の割合は、中学2年の約5割、高校2年の約3.5割、青年の約3割であり、年代があがるにつれて、ボランティアへの参加経験がある割合は少なくなる傾向にあった。

(平成28年度調査で新設した質問項目であるため、過去の調査との比較はできない)

図71



### ▶▶ イ ボランティア参加群とボランティア不参加群の比較方法

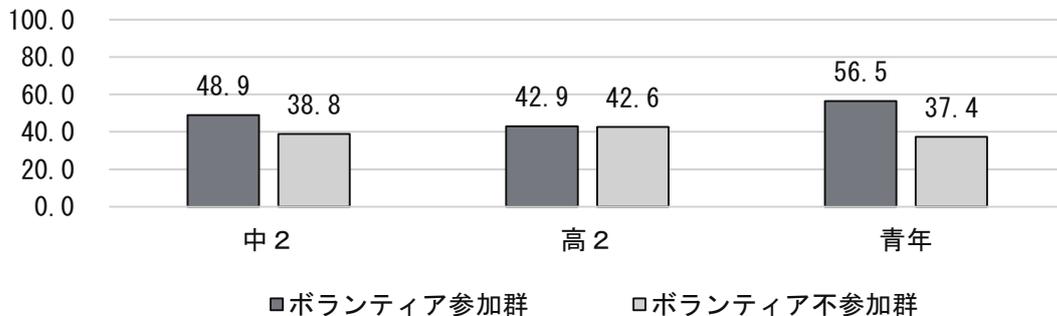
ボランティア参加群とボランティア不参加群別に全質問項目を集計し、回答率に10%以上の差があった項目を抽出した。ボランティア参加群とボランティア不参加群で、2つ以上の年代に共通して差があった項目のうち、主な項目は次のとおり。(なお、ボランティア参加群とボランティア不参加群別の集計は、有効回答者数(n)から無回答を除いて行った。)

## ウ 家族・家庭

- 家庭生活の満足度について「満足している（満足している、ほぼ満足しているの合計）」と回答した割合は、ボランティア参加群の方が高かった。特に不参加群との差が大きかったのは中学2年（約10%）、青年（約19%）であった。

あなたは、家庭での生活に満足していますか。  
（満足している+ほぼ満足している）（%）

図72

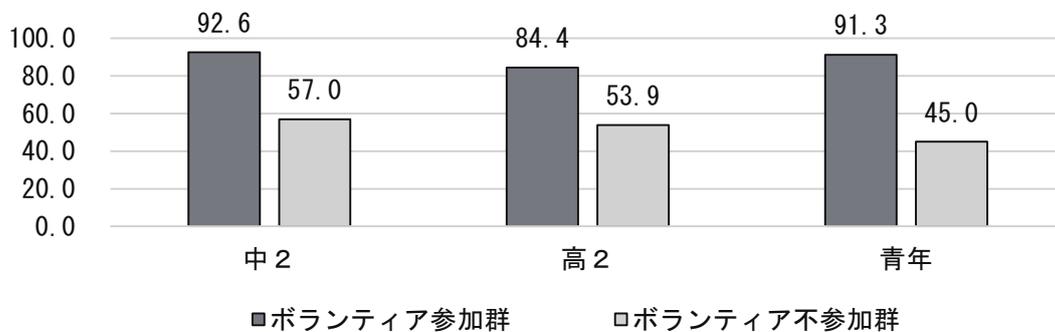


## エ 地域とのかかわり・地域での活動

- 地域活動への参加経験について尋ねた質問への回答では、ボランティア活動参加群は、不参加群よりも地域活動に積極的に参加していた。（参加したことがある＝この一年間に参加した地域活動として「祭り」「一斉清掃」「公民館活動」「地域のスポーツ活動」「青少年団体の活動」「災害復旧」「子ども会活動」「レクリエーション」「消防団」「非行防止」「その他」を選んだ者の合計）

地域の活動の中で、この1年間にあなたが参加したものはどれですか。  
（参加したことがある）（%）

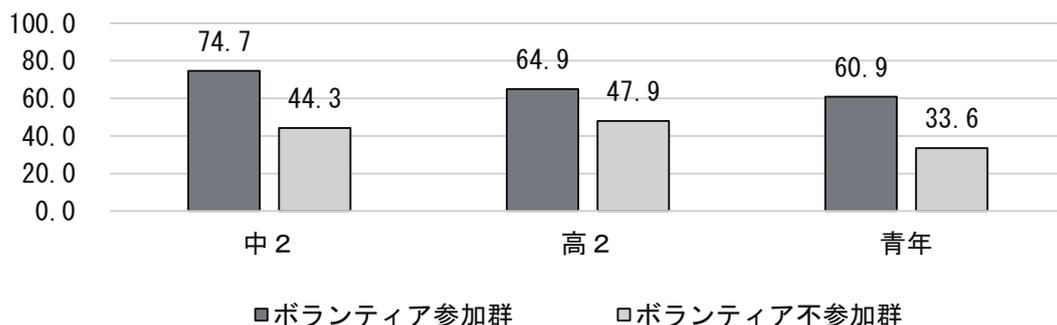
図73



- 特に、祭り、一斉清掃、公民館活動では、ボランティア参加群と不参加群の差が顕著であった。

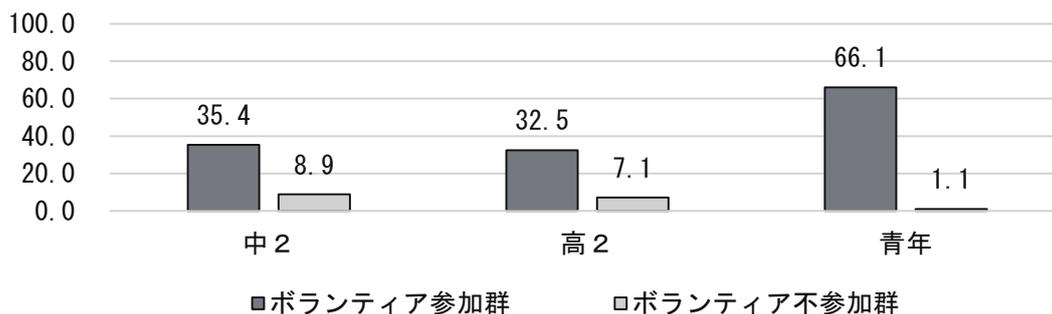
地域の活動の中で、この1年間にあなたが参加したものはどれですか。  
（祭り）（%）

図74



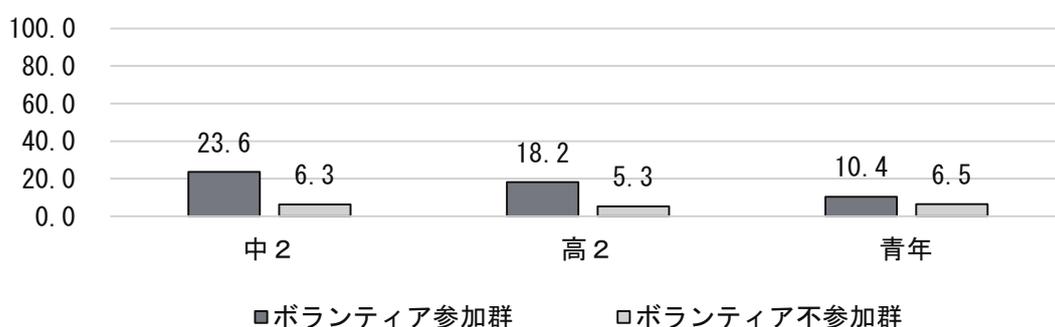
地域の活動の中で、この1年間にあなたが参加したものはどれですか。  
(一斉清掃などの活動) (%)

図75



地域の活動の中で、この1年間にあなたが参加したものはどれですか。  
(公民館の活動) (%)

図76



## 生活

- 生活習慣についての設問では、ボランティア参加群は近所の人や知り合いへのあいさつを「よくしている」と回答した割合が、不参加群より1割以上高かった。

近所の人や知り合いにあいさつする  
(よくしている) (%)

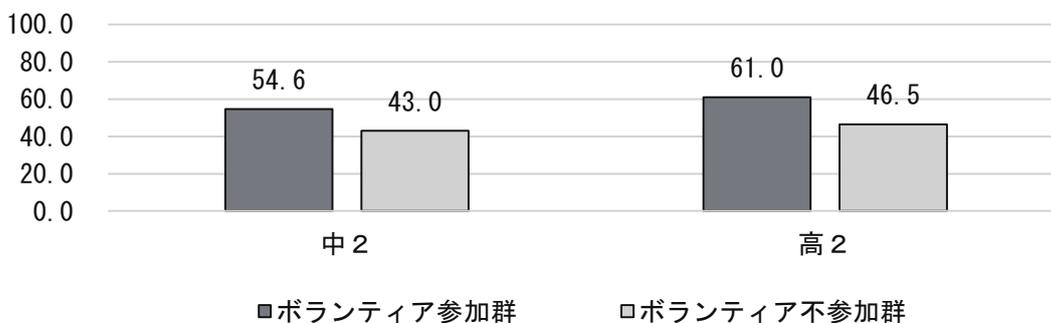
図77



○ 体験的活動の経験の有無を尋ねる質問では、ボランティア参加群は、「のこぎりや金づちを使って何か作ったことがある」「体の不自由な人やお年寄りなど困っている人の手助けをしたことがある」の項目について、不参加群よりも経験が「ある」と回答した割合が高かった。

あなたが、これまでに学校の勉強や行事以外で体験したことがあるものについて、当てはまる番号すべて選んで○をつけてください  
(のこぎりや金づちを使って何か作ったことがある) (%)

図78



あなたが、これまでに学校の勉強や行事以外で体験したことがあるものについて、当てはまる番号すべて選んで○をつけてください  
(体の不自由な人やお年寄りなど困っている人の手助けをしたことがある) (%)

図79

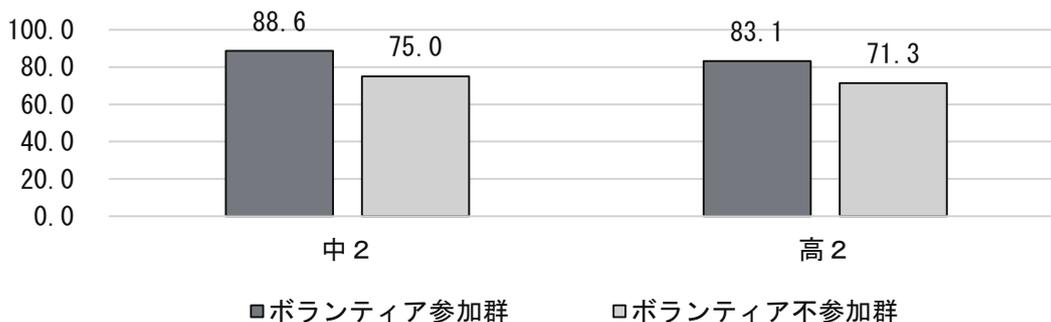


## ▶▶▶ カ 心の状態

○ 達成感についての設問で、自分もやればできると思えるような経験が「ある」と回答した割合は、ボランティア参加群の方が10%以上高かった。

あなたは「自分もやればできるんだ」と思えるような体験をしたことがありますか  
(ある) (%)

図80



## (10) 選挙投票への意識による比較

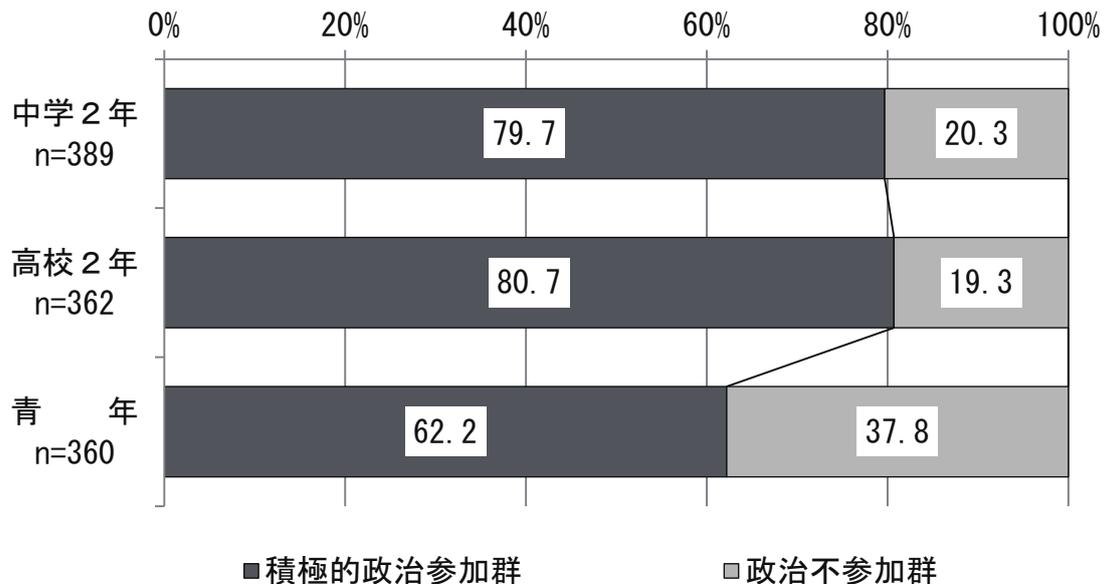
### ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分

選挙を通じた政治参加への意識が積極的な群 = 「18歳になったら選挙の投票に行きたいと思いますか」という質問に対し、「必ず行く」「なるべく行く」と回答した者。以下「積極的政治参加群」という。

選挙を通じた政治参加への意識が消極的な群 = 上記以外の者。以下「政治不参加群」という。

積極的政治参加群と政治不参加群の割合

図81



積極的政治参加群の割合は、中学2年・高校2年の約8割、青年の6割であった。

(平成28年度調査で新設した質問項目であるため、過去の調査との比較はできない)

### イ 積極的政治参加群と政治不参加群の比較方法

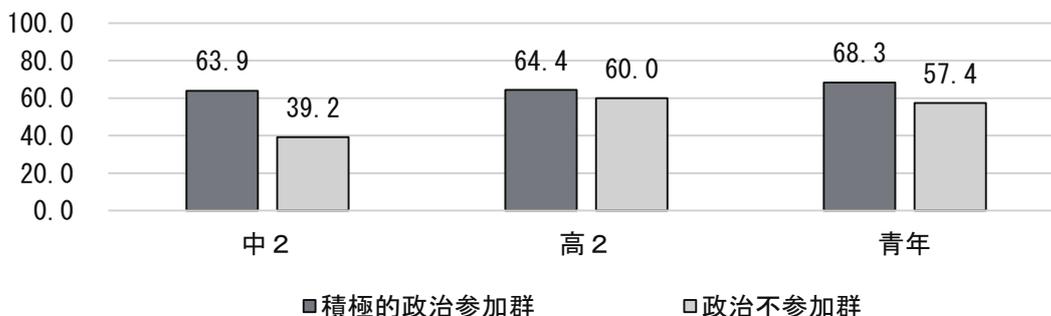
積極的政治参加群と政治不参加群別に全質問項目を集計し、回答率に10%以上の差があった項目を抽出した。積極的政治参加群と政治不参加群で、2つ以上の年代に共通して差があった項目のうち、主な項目は次のとおり。(なお、積極的政治参加群と政治不参加群別の集計は、有効回答者数(n)から無回答を除いて行った。)

## ウ 家族・家庭

○ 家庭での大人の家族との会話の頻度を尋ねる質問で、「よく話す」と回答した割合は、中学2年では約25%、高校2年では約4%、青年では約11%積極的政治参加群の方が高かった。

あなたは、大人の家族（兄弟、姉妹以外の家族）とどれくらい話をしますか。  
（よく話す）（%）

図82

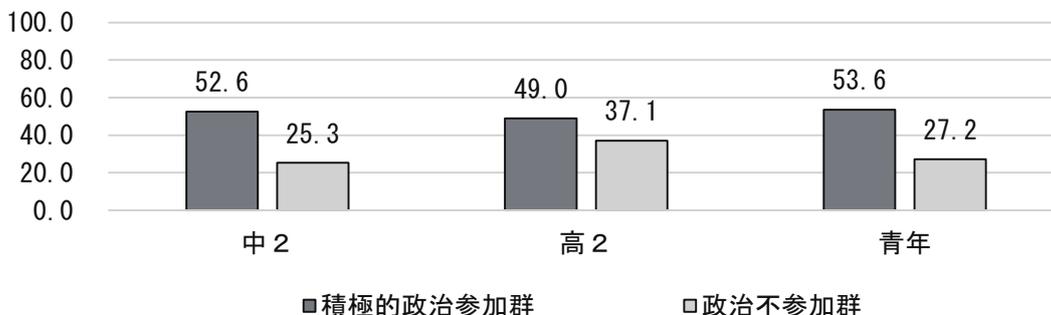


## エ 地域とのかかわり・地域での活動

○ ボランティア活動に関する設問では、積極的政治参加群はボランティア活動への関心、参加経験のどちらも不参加群より高い傾向にあった。

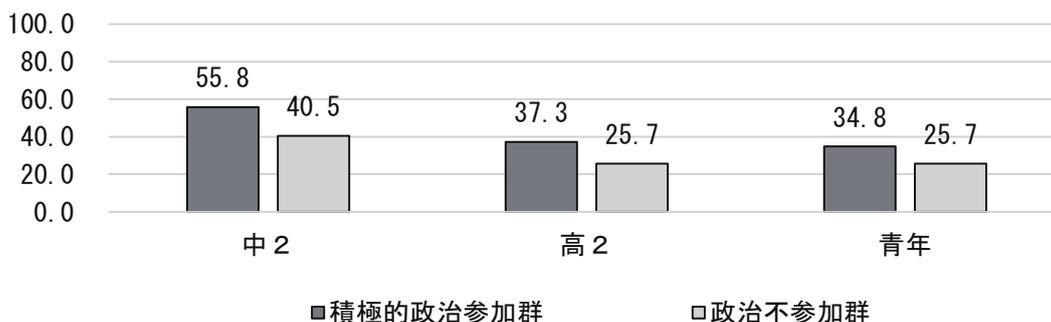
あなたは、ボランティア活動に対して、どの程度関心がありますか。  
（非常に関心がある+ある程度関心がある）（%）

図83



あなたは、この1年間に何回程度ボランティア活動に参加しましたか。  
（参加した）（%）

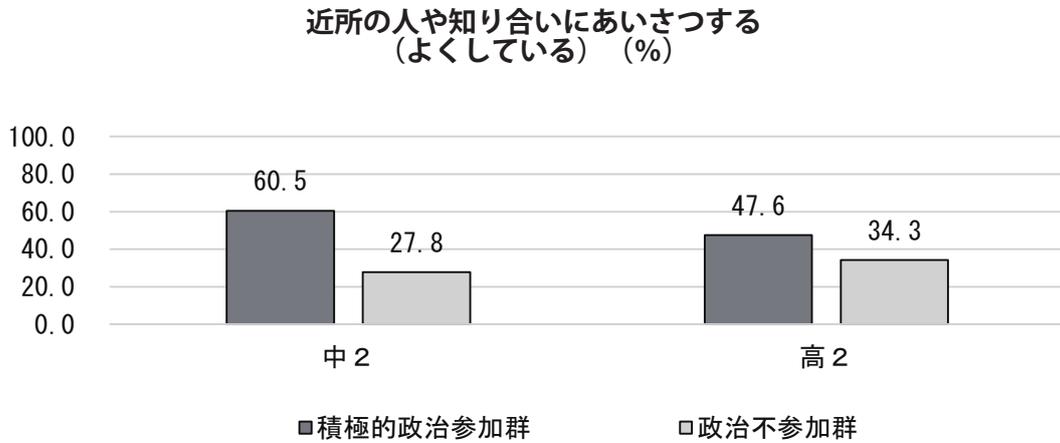
図84



生活

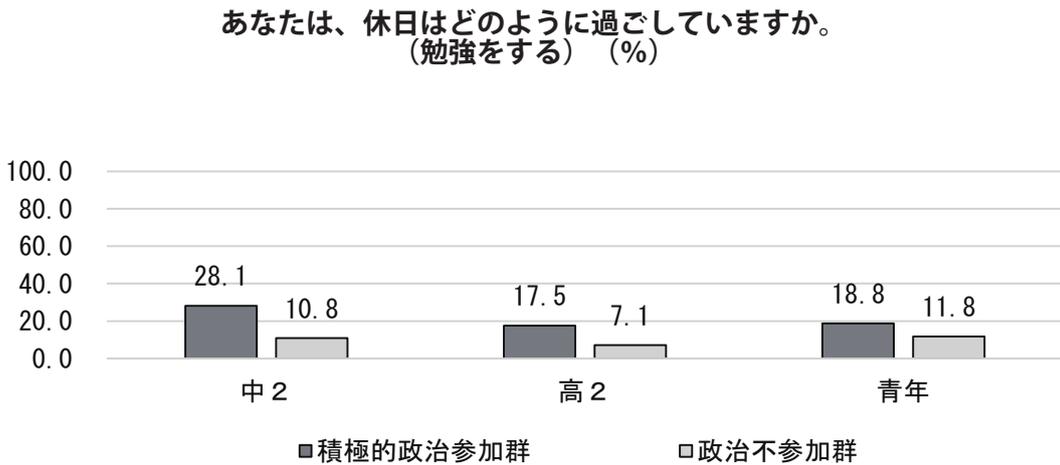
○ 生活習慣についての設問では、積極的政治参加群は近所の人や知り合いへのあいさつを「よくしている」と回答した割合が不参加群より高く、不参加群との差は中学2年で約33%、高校2年で13%であった。

図85



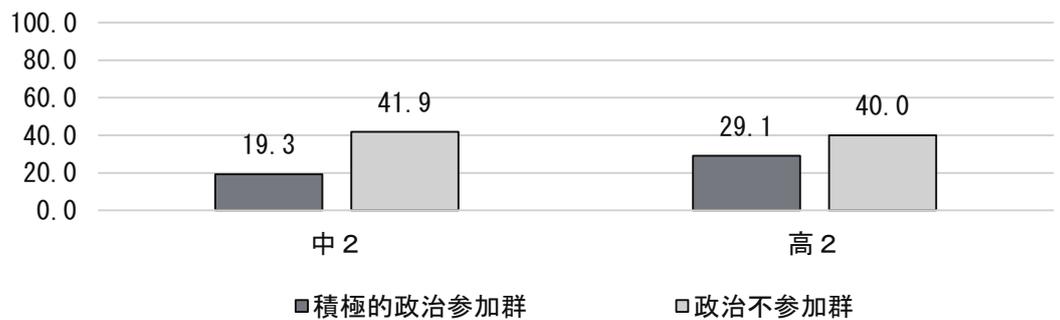
○ また、休日の過ごし方についての設問では、積極的政治参加群では「勉強をする」と回答した割合が高く、政治不参加群では「ずっと家にいる」と回答した割合が高かった。

図86



**あなたは、休日は主にどのように過ごしていますか。  
(ずっと家にいる) (%)**

図87

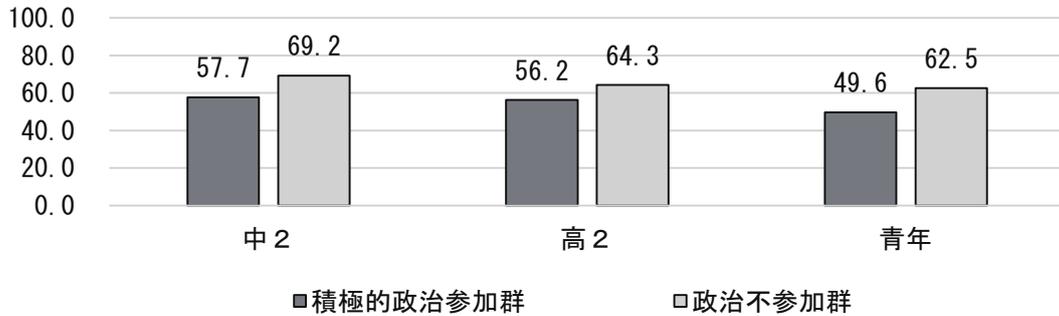


## ▶▶ カ 非行

- 積極的政治参加群では、下記グラフのとおり非行に該当する行為について、最近1年ぐらいの間に経験が「ある(1～2度ある、ときどきあるの合計)」と回答した割合が不参加群よりも低かった。(青年は18歳(高校卒業)までに「あった(よくあった、ときどきあったの合計)」。

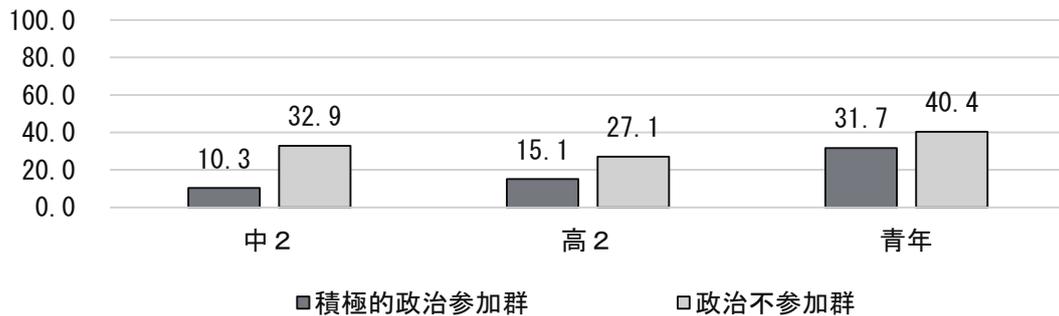
**家の人にひどく反抗したことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)**

図88



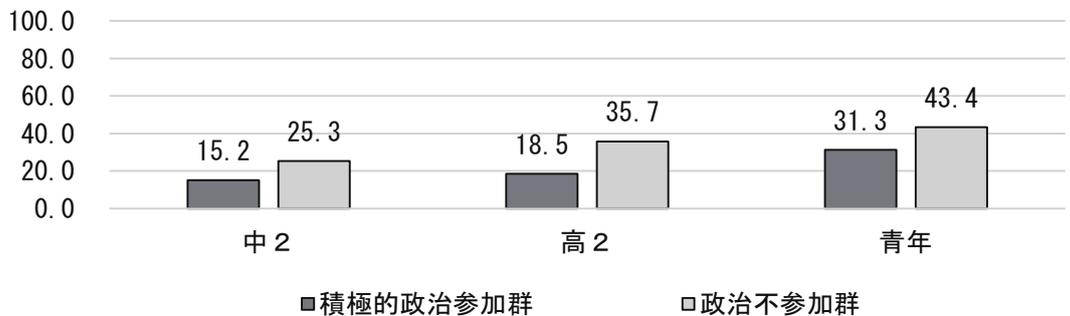
**学校の授業をさぼったことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)**

図89



**友だちと酒を飲んだことがある  
(ときどきある+1～2度ある) (%)**

図90



平成 28 年度鳥取県青少年育成意識調査【概要版】

平成 29 年 3 月発行

鳥取県福祉保健部 子育て王国推進局 青少年・家庭課  
〒 680-8570 鳥取市東町一丁目 220  
電話 0857 (26) 7076

※本報告書の内容を引用された場合、その掲載部分の写しを上記担当あてにお送りください。